



九折堂山。門
氏圖書之記。

○門熱五法之弁。○補中益氣湯病因弁。

○本方瘧疾主方弁。ニリ

○補中益氣湯六經加味。

三ノウ

○調榮益氣湯。

四ノウ

○煩躁之辨。

五ノラ

・虛者真陽飛越元症

○心脾腎三臟有勞役弁。

六ノウ

○心臟勞役。

補血湯。

方ハセトヲ

○房室勞役雙和散。

口

○脾胃勞役。

医王。

ハラ

○腎虛。

滋陰降火湯。

七ノウ

○四物湯知柏。

九ノラ

○眼耳齒痛之辨。

ハラ

○胸前脹痛之弁。

ハウ

○虛症反覺精神強健論。

妙

○咳嗽之弁。

十ノウ

○神仙妙訣。

サウ

○岡本家医王口授弁。

キテウ

○補中益氣治後重弁。

二十二

○裏急後重之弁。

二十三

○裏急發圓頻汚者。

登圓僅下膿白一点。

崇滑。

二十四

○氣脫也。

二十二

○後重隨減大腸虛滑。

○脉浮大之弁。

二十四ノウ

○痢病治方之弁。

二十一

○虛痢目的之弁。

二十二ノウ

○治病經驗。

サセヲ

○六味設割當芍桃木枳大黃。

○痢疾病因之弁

二十七ラ

○痢疾藥品之弁

二十七ナ

○腐肉痢之弁
(六桂散加附子二十九ラ)

(六桂散加附子二十九ラ)

刮腸

○參白芍藥湯之弁

三十一ラ

○紅膿白膿之弁

三十二ウ

○始泄浮至膿血之弁

三十三ラ

○寒痢之弁

三十三ラ

○錢氏益黃散之弁

三十四ラ

○脉浮大之弁

三十五ウ

○建中湯之弁

三十六ラ

○真人溫脾湯之弁

三十六ラ

○鯉魚膾之弁

三十九ウ

○阿芙蓉之弁

三十九ウ

○休息再按

四十一ラ

○大黃人參湯之弁

四十二ラ

○痢後眼病之弁

四十二ウ

○痢疾形狀之弁

四十四ラ

○浮病黃色之弁

四十四ウ

○浮後膿血之弁

四十八ウ

○逐瘀湯

四十九ラ

○木香流氣飲

四十九ウ

○大防風湯

四十九ウ

○真人養臟湯

同ウ

○胃風湯

五十ラ

○黃芩芍藥湯

五十九ラ

○倉稟散

同

○不換金正氣散

同ウ

○桃仁承氣湯

五十九ラ

○升陽益胃湯

五十九ラ

○四君子湯

五十九ウ

○補中益氣湯

五十九ラ

○敗毒散

同ウ

○白頭翁湯

同

○肉桂之弁

五十九ラ

○延胡索之弁

五十九ラ

○木香化滯湯

同

○參連湯

五十九ラ

○胃風湯

五十九ラ

○雜利痢病嘔別弁

五十九ウ

御食庭家秘說 卷ノ三

明 批五法之辨

張翰可が趙氏医貫門批ノ五法アリ門熱トハ熱ヲナ

テルト云コニテ人ノ肌ニキヨアテ、熱ノ輕重ヲ見ルニキノ輕重ヲ五ツニ別テ診

察スル法也医貫ノ此五法、東垣先生ノ補中益氣湯ノ口訣ニ外

傷ハ手背批シ内傷ハ手心批ストアリ此乃傷寒也別十二証ノ

口訣ノ一つ今病人ニ試ルニ皆モ相違ナキモノニ風寒等ノ外邪

熱ハ手心ノ表及ヒ背ノ陽分批シ飲食方倦等ノ熱氣ハキノ

裡及腹陰分批ス内ヨリ發ル病ハキノ裡カ熱シ外ヨリ侵ス外

邪熱ハキノ表カ批ス道理ナリソレニワキテ背ノ批スハ外邪ト

ナシ腹ノ拵スルハ内邪トナス是自然ノワリフイヤトイワレヌ處。東垣先生ハ手ヲ以テ其診ヲ而ス張歟可ハ又東垣先生ノ手ノ下ノ診法ヲ弘メテソレヨ病ノ體ニテ候法ノ五ツニ別テ發明シタルモ、是元亦東垣先生ヲ助シ妙法ト云。今其全文ヲ記メ人ノ經驗ニ備フトクト修行メ其術ニ熟達スヘシ趙氏醫言曰以輕手押レ之則撓掌按之則不撓是撓在骨體也輕手押レ之不撓重手按之亦不撓手摸之則不撓是撓在皮毛血脉也重按筋骨之間則撓蒙不輕不重按之而撓者是撓在筋骨之上皮毛血脉之下乃撓在肌肉。肌肉間撓着正内傷方倦之撓也。是東垣門_{マフル如}之法也。押之格手骨中如。

矣者肾中血陰虛也。押之始爭按之筋骨下反覺寒者肾中血陽虛也。_{是趙氏自得也}

補中益氣湯病因辨

補中益氣湯ノ病因四區別アリ饑飽毎

時ニツヽ四肢方役コレニツヽ或先飢飽毎時四肢方ヨミツヽ或先四肢方役次飢飽毎時コ西ツヽ更一饑飽毎時ト、饑ハウニト訓テ俗ニモジキツヽ飽ハアクト訓テ俗ニ云腹ノクチサユトノ人トヨロ(客人トナリテイヤカウ)三大食シタリ又道中ナトヨメ大イヒタルクタニ食ニアリワケハ勿外ニ大食エタリ如此飢モ飽モ時ナキ時ハ脾胃之ガタメ傷シテ逐ニ益氣湯ノ病因トナリ是ヲ飢飽毎時ト云又脾主四肢ト云手足ハ脾藏

主ルトヨロ此ニ因テ名力事ワガヨク外ニワクニ或違道ナトラメ足ノ分外
 ワカラシ如是手足分外ニ辛苦スルキハ其傷イハニ脾胃ニ及ヒ此元虛漏
 ノ証トナル此ニ四肢常役トム又右ノ如ク飢飽時ナキニヨツテ脾胃ト
 傷タルウヘ更ニ四肢ヲ常役シテ内ト外カラニ病遂ニ解氣虛漏人
 益氣湯ノ証トナル又飢飽時ナクスノ脾胃ト傷タルウヘ又更ニ四肢
 ヲニ方役メ逐ニ脾胃虛寒ノ証トナルコシ四ツノ病因ミ此病固ヨリ種
 タノ病ヲヤミ出スモノハ補中益氣湯正面ノ証ト知テ療治タ
 ナスヘ此ニ補中益氣湯四回ト之

本方瘧疾主方弁

友松子曰凡瘧疾不問寒熱多四五發後

便可截カツ之用本方二錢一指棉二分或五分炮姜一片生薑二片煎成
 露一宿臨發日五更空心溫服瀆再煎服於將發之前此法得
 自張景岳薛新甫諸老鑒按矣世以清脾常山截瘧等方
 忌為未安レバカ右云トヨロ炮姜トムハ先生姜ヲ紙ツツミ水ニ浸シトリア
 ハテ當キテ以テシホリ炮灰中ニイレシラクシテ取出ニ其生姜ヲ切テ見
 ルニ其切口飴イロニナリテノマジテ其キリクキサレ按テ見ルニサシ筋キミ
 ヤルチ度トスソレカ乃炮姜、剝、而煎之ノ中露一宿トムハ其
 煎シタケタル葉ヲ清淨ノ器物ニタクワヘ夜露ニウタスレテ其ウ
 夕シタル葉ヲ夜九つオシブニ取入明セリニ東方ニ向テ一度ニ尙

呑シテリ。右ノ股法コノ通りセザレハ効ナヒ炮姜ノ割を最心ナツテ
ベシ此方予冬モト試タルニ友松子ノイフル、遍リ隨フ効アル方貯シ
ヲ試ヘ。備スワト元氣ノ裏外ノ病人ニハ炮姜人參湯ヨリ其炮姜
製ハ右ノ通りニメ人參ニ炮姜一ノ股ニ調合シ煎シヨウハ前ハ
通ニテヨロシ此席大虛ノ瘧疾ニ妙効ヲ取一例。張景岳が瘧疾
方彙二人參ヲ去テ唐白朮用ル方アリ是ハ貧窮ノモ一人參ヲ水に
7カテキス病人ニテヨトフリ不未試後來試テ可ナリ

補中益氣湯六經加味

盧廉夫曰因飲食勞倦所傷氣虛邪製

每感寒而頭脣証此挾內傷之傷寒也但傷寒挾內傷者。

十居八九經曰邪之所凌其氣必虛補中益氣湯復六經所見之証
加減用之。○如見左陽証頭項痛腰背強加羌活藁本桂枝。○
如陽明証身熱目痛鼻乾不得眠加葛根倍升麻。○如太陽証
胸脇痛耳聾加黃芩羊夏川芎倍柴胡。○如太陰証腹滿嗌乾
加枳實厚朴。○如太陰証口燥舌乾而渴加桔梗生甘草。○如厥陰証
煩滿蒙縮加川芎。○如少陰証發班加葛根玄參倍升麻。○內傷
挾痰加半夏竹瀝仍入姜汁傳送已上四証此六經加味ノ法一定ノ法
ヲ以テ善堂ノ度ニ應スル者ニ似タシサヨウニテナシ内傷ノ傷寒上略
六經ノ傷見ストキハ多クハ此加味ニ従テ利ヨリ。丁多シ後來ノ經

驗^ト足^ヲ試^ム又内傷^ノ傷寒^ニ頭痛發^ヒ汗出偏身痛^ヲナシ腰脚痠^サ
痛^ハ脉カラナキ等^ノ証^ヲ患^ル足^ヲ傷寒^{六書ニ}房力傷寒^ト足^ヲ
調榮益氣湯 前ニ云トヨロノ四肢ヲ守役^シ衰風寒^ニ筋メイタス所^ノ証^ニ調^ト
榮益氣湯ト云方アリ乃医王ニ升麻ヲ生地黃川芎細辛羌活^ト
防風ヲ加ハタル方^ノ傷寒^{六書ニ}見^{タリ}余此方ニツヒテ後來^ノ經驗^{アリ}
此方ハ學方力傷寒^ト云文ニテ六經ノ証ハハキト見レザル証^ニ此時此
方ヲ用ルトキハ効アリ若此方ノ証^ニ六經ノ証^ヲ見^ストキハ前ニ云トヨロノ虛羸^ト
夫カ加味ニ従テ調合セヨサヨウイタス^ハ二方各其用ルトヨロニソムカサハ効^ト
トル^ト甚^ラシ試ムヘシ

煩躁之辨

煩躁ノ証 傷寒^ニモ内傷^ニモ多アル証^ニ此煩躁虛寒^ノ区别アリ 実証ノ煩躁甚^ニ人實メ煩躁^{スル}是^ニ此實証ノ煩躁ハ
見ワケルニ大ニ見^{アキモチシ}此ニ傳モナシ惟虛証ノ煩躁至^テ大事ニ
無証^ヲ見^{ソコナウトキハ}兼一ロニロノ間ニシテ一服^ヲ盡サル^ミ人命ヲ殺^フ
アリ能^ク其証ニ孰^シ見^{ソコナウスヨウニ}心^ハベシ^{トハ}内煩^ト云テ一ト
口ニハ内カホテリ苦^ノ覺^{ヘテムシツク}内煩ト心^ハベシ^{トハ}内煩^ト云テ一ト
トニテ周身ヲモミアセリ^キ足^ヲナケウチ全体サハガシナリ卧カトモ^ハ
又起テミタリ起^ルカト見^{内ニヤガテ}又卧ト云タリ彼是身モタム^ト
アウカリテ苦ム^ト躁^ト云躁^ト字^ハサワカシト刻字^ノ病証右ノ如

王
カリテ
サハカシキツヘニ燥トキノ頗ハ胸内ノアツクルシキト云ニカヘリテ知ル處ナリ
内煩外躁故内煩ト云躁ハ狂ニカラリテ知ル處ナリ有ニ外躁ト云史方内煩外

內煩外躁

故内煩少云躁カラタハ施カリテ知病ナリ有外躁ト云史有内煩外躁ト寛ヨトハキ此証前ニモ云通リ虚实共アル証ミツシキ治之

ヤスク虚証、治之難い況や頗躁ノワカレヲモ知ラズ療治ヲ誤
傳經裏熱
裏熱ノ証ニ多アル証ニ又多ク加減湯脇湯ニ頗躁ヲ見スアタ
リ

傳經裏

三多氣ノ記ニモ多クアリ。何レニモ実煩冥躁ハ其主方サヘ誤ラム
未傳冥中ナニモ人治スルヲアルモノ。サテマタ虛煩虚躁ニ至テハ未傳冥中ノ証ニ
多クアルヲ之未傳冥中。説ハマ既ニ詳ニヨレテ辨スレハ夏ニ昭ス甚其。

多ナルヲ之未傳宣中、詭ノマ既ニ詳ニコレヲ辨スレハ多ニ略ス其ニ

虛煩虛躁

右ノ通リニ冷ルコレ則虚煩虚躁ニキガヒナシ是ノ虚煩虚躁ヲ見スヰハ
其夜ノ内カ其翌日^日カワノ先キワメテアルヘシ煩躁ヲ見ヨリて一日ト延ニ
テラカウヌカヨウナラ、早々に齋合ヲコトフリテシニウヘシウウラクト庵居

ラメ居にト必汚名ヲ取アリ謹ベシ虚煩虚躁ノ症其人言モ至テタニ
カニ起卧スルアリサマナカニ元氣好メ忽ニ度証ナトノアルヨウニハ見ヌモ
ノ此元氣ノヨニニ醫者ガムサレテ耻ヲカクアガアル心得ベシサテ此虚煩
虚躁ノ治法イ益氣湯グラヒノテ又ルイフニテハ中トクモノニテハニ四
逆湯ノ大剤ナト足定クノイ因弟治モアリ種々ノ主方アリ然ニソレ
テ治スルトニワケニモ至ラス病家ヨリ革ラノリニ止ヲス調合スルトキノ
アセライ位ノモノノ虚煩虚躁真陽内脱傷氣外飛散スルノ証ナシ其尤
決メ逃ルヘカラス此煩燥ヲ知ル口傳ノ説ナリ

心脾腎三藏有方役弁

勞役ノ証惟脾胃ノヲミアルト心煩ベカ

ラス心藏ニモ腎ノ臟ニモアルノ其謂心ノ藏ノ勞役ハ我持ヘ智恵サ
コシテ思慮分別度ニテ心ツカヒヲスルキハ心ノ藏其苦方ニタ(ビニガタ)メ
傷ラレテ極氣ヲ生シ補中益氣湯ノ証ノ如ク煩フアリ是乃心ノ藏
神血湯 方役スルヨリ起リタルニテ其苦方示ユトノ則此主方ニハ補血湯也
其方人参一錢五味子十五粒寺飯麦門冬白芍茱萸各一錢
東洋生地黃一錢山梔子甘草陳皮各五分川芎四分右十二味姜半
煎空溫服ス是其主方サテ又脾胃勞役ノ極イハ是ニテモ之云
通リ主方ハ補中益氣湯コレ備色慾オホレ肾ヲ方ニ思慮メ
心傷リカラワサラメ脾胃ヲ傷以上心脾腎ノ三藏ヲ方役メ病アリ

此全方ハ雙和散之方ノ條下ニ云治心カ俱房氣血俱傷或房室之後房

役或房役之後犯房大病後虛勞氣之等証其方 黃耆 川芎

當歸 熟地黃各三錢 官桂 其艸名七分半 白芍葉二錢半 姜虧

水煎空心服。心脾腎三臟一度ニ房役メ病トキハ益事湯ノ外此方ヲ

兼服スヘシ若只房心計ニテ病トキハ前ノ補血湯ヨシ若熱氣ナ

キハ歸脾湯可。若又色慾ニオホレ腎水虛損メ病ニハ滋陰降火

湯カサテハ四物湯ニ知柏ヲ加テチクル者カユノニワシ右ハ心ノ藏ニモ脾

藏ニモ腎ノ藏ニモ房役ハアルモノトコロヘシ思慮方ニスギテ心ヲカウハ。

心ノ藏ノ字役ニ承スヤ又テニ勝テカラワサヲナニ飲食時ナクメ脾ヲ傷ル
是脾胃ノ房役ニ承スヤ色慾ニオホレテ腎ヲ房ラスハ是腎ノ房役
ニ承スヤ此通り房役ハ三藏名アルヲ。三藏ニアレハ三藏ノ主方アリ
心ノ藏ノ房役ノ主方ハ補血湯コレ。脾胃ノ房役ノ主方ハ補中益
氣湯コレ。房室ノ房役主方ハ雙和散此ニ補中益氣湯ノ房
役内ニ心ノ房役ヲ兼ルモアリ。腎ノ房役ヲ兼ルモアリ。又腎脾ノ房役
ヲ一度ニ兼ルモアリ。是等ノトコロヲヨリく病人ニ對し診察メ方ヲ屢ベシ
コレ又心内ノオルモノ。

眼耳齒痛之辨

補中益氣湯。火上升証ニ目痛或耳聾或齒

痛。

痛アリ是コレ等ヲ別証トナシテ治スヘカラスヤハリ内傷方役ノ証ニ其脾胃ヲ調理スルキリ是等ノ証自然ニ治スルトシ更ニ別証トナシテ他ノ等ヲ服用スルヲ勿レ若誤テ寒ミ等等ヲ用ルトキニ其阴火イヨヒ性ニ其病治セサルノニアラス反テ其証ニ重ラスモノニカヨウニ耳聾目痛齒痛等

陰火上升ノ証ニ皆是阴火上升メ日ニ集遠ニ聚リ耳聾張テノユヘシ然ルトキ其上升ノ陰火カ退トキハコレラノ証ニ治セスに自然ト退クモノ

胸前脹痛之弁

スヘ補中益氣湯ヲ用テ胸カ脹痛ナリ此乃前ニ云

トコロノ濁氣上升胸中滿悶ノ意ト同シ甚至方ハ柴胡升麻酒妙ノ制良

ニラウテ是ヲ治スルキハ其脹痛自然ニ退クノ是亦別証トナシテ治スルトナシ

皆是脾胃ノ清陽煦ニ升ラス胸ニ升ラスアルキハ陰氣ソニニヨリテ氣滞ノ痰

アツマリテ脹痛ナスモノニ清氣煦ニ達ストキハ濁氣退ノ陰邪自然ニ降リ

テ脹痛ニ愈ナリ此ノ前ノ虞天民ノ說ト併セ見ルヘシ虞天民ノ說ハ

前條見タリ内傷ノ証大便閉者ハ補中益氣湯此種子

枳壳杏仁ヲ加フ小便利セザルニハ牛膝ヲ加(汗多ニハ白芍)茶ヲ加テ少ア

テ減スロ乾ハ葛根五味子ヲ加フ汗ナキニハ升テノ倍ス右コノ加減ノ法醫通ニ見タリ不試ニ往く効アリ

醫通曰素有病入過房役動作反精神覺強健何也曰此陰火拂騰扶助於内不見元氣

之不足也若靜養調適反覺神倦氣弱此陰火已退陽無以復

妙奇
反覺精神
強健

本相透霑故也。勞役証ハ前ニモダンニ云通。手足ニ力ナク眼中ノ見
ハリモカヒナク其外諸証トカク元氣ヨワキ。証ヲ見スヘキニ及テユニテ
ラリ思ノ外其人手足倦怠モナク眼辨モ見張ワヨク其人達者見
(テ益氣湯) 証ニハシサル病アリ是等ノ証濃ハ益氣湯鑿
搗ヲトリカ(テ他ノ方轉シタキ程志)。病アルモノ此便コニ云
トニロノ陰火沸騰ノ内ヲ枝助シ元氣不足ナ。見(サル証)推テ
補中益氣湯ヲ用トキハ反テ手足モ倦怠シ眼中ノハリモカイナク
ナルモノ。是翻テ吉証。其謂ハ勞役内傷。証ニハ元氣不足スル
病ナレハ其証モ弱キヤウスヲ見ス。ギコニ其持てヘニ然ニ反テ右ノ。

通リツヨキ証ヲ見スハサカサドナリ。是ホメヌトナト而ニ益氣湯ヲ服メ
以後心倦氣弱キ等。証ヲ見スハ諸証カ順ニナウテノル。故豆吉証
トスルト。其レハ知ラズ。他病トシテ證ニ苦寒。剤ナトヲ用ルキハ毎ニ
人ヲ殺ノ罪ノカルカラス。此理ヲ物ニ譬テ云トキハ其抵。勢ニサソワレテ假ニ元氣
モ能ミルモノ此理ヲ物ニ譬テ云トキハ臆病。人カ勇氣アルノコト智恵
ヲ以テ潔ク當クハシタラケビ其勇者か退トキハ元ノ臆病トナカ如ニ。陰火
ノウチ智恵退ク。又本ノ陽氣不足ノ証ニタナカ(テ陽氣不足)諸
証ヲ見ス。是自然ノ理。必治療混難スヘカラサルモノ。

咳嗽之辨

補中益氣湯ノ証久メ愈サルニ卒ニ咳嗽ヲ発ス。

アソニテハヤハリ医王ニ乾姜一味ヲ加テ治スヘシ自然痘トアリ必瘧喉ノ
利ヲ別用テ療治スルト無用ニ元氣已ニ復スルキハ咳嗽自ラ治スル
モニ此証並經驗ヲシ此亦阴火盛ニメ清陽上ニ升ラサルレキハ痰

ノ渴陰胸膈ニ叢テ致ストコロノ咳嗽ニ其症候ニ同リカケス惟ナシテ
紫胡ヲ酒製メ陽氣タウアリ升提スルキハ渴阴降リ咳嗽自然
ニ退ニ猶此條モ前ノ虞天民ノ說ト併セ見ルヘシ前モ云通補中

益氣湯ヲ用テ其陰火退テノ以後保養ノ利ニ四君子湯ヲ本利トメ

其時ノ加味ヲナスヘシ補中益氣湯ヲ用ルニ前モ云通り眼勞ヲ
以テ病証ヲ決スルト詳ナレ凡猶其上ニユロアリ其心内ト云ハ滋陰降火

眼中別知湯 眼中ヲ以テ其証ヲ決スル口訣アリ益氣湯ノ方ニモ眼中ヲ見テ決

スルノ口訣アリ此二方ノ眼中ヲ見ル方左ノ通心丸ヘシ滋陰降火

湯ノ眼中ハ瞳子ガリントヒツタテ見ハリツヨク瞳子ノ下ニコケルア

ニヒサモナキノ因眼中何トヤラシ物スヨギ光アリコレ滋阴降火湯ノ目

ニミヨウノ又補中益氣湯ノ目ノ見ヨウハ眼中タラリトメ無力瞳子
ガタコケルキミアリ因(目)光リナシ此益氣湯自ノ見様ニ又申

ス猿ヲニ方ノ証ヲ別知目的アリ口中ニ味ナク何ヲ食テモ五味ワカラ

又飲食ヲ口中ニ味テ辛物ハ辛ク酸物ハスクク五味者口中ニ

口中別知

別テ不食スルコレカ滋阴降火湯ノ口中、補中益氣湯ノ口中ハ脾胃
イヲレアル故ニ味ヲ知ラス。滋陰降火湯ノ口中ハ腎ニ言ロシヲワテ
脾胃ニトガナシ故ニ不食スルトイ。五味別ル。是亦二方ノ肝心ノ目
的。獨此目的ノコハ滋陰降火湯ノ條下ニオヰテ之ヲレハ寔ニ略ス。

岡本家益氣湯口授之弁

醫書

門ニ示ス。左ノ如レ東垣ノ諸脾胃ヲ補ハ胃中ノ王道。トアリ。此

諸ヲ以テ此方ノ別名ヲ医王ト。一切病後專用方也。此方ノ
目的ハ諸病中氣ノ虛シタルニ專用。方ニ虛羸メクタク愈サル病ニ
此方ヲ用テ効ヨトル。多シ医通ニモ凡諸病病轉倒而難明必從。

脾胃之調理トイ。アリ此諸ヲ以テモ諸病ニ妙効アリトニテ知ル。此
方ヲ虛証ニ用ル目的ハ氣下陷メ無力。脉虛大ニメ無力ニ必用ル方ナリ
ト知ル。其肉脈ハ微細ナルモノモアリ。或強ナル者モアリ。元氣ノ甚シ
虚シカレテ下陷メ無足一飲冷シ及一身に冷テ先セントスルニ此方ニ附子
ヲ加テ用エ。先姜附湯ヲ用其病証ニエシ。近キヲ用エキ。即効ヲ取ニ。
參附湯ヲ用ヒ。或元氣甚虚シタルニハ獨參ヲ湯ヲ用エ如此ノアシラヒハ
血脫ノ証時アル。故ニ產後金瘡獨參ヲ附用レ。多シ血大ニリタリ
トテ其血少。俄ニ益コトナラヌ。此通ノ病証ニ血ヲ益レトテ四物湯ノ如キ純
陰ノ利ヲ用ハ其内イヨク虛ニ元氣愈。衰テ其死ヲ速ニスルニ故ニ先

獨參湯四君子湯參附湯此方ノ類ヲ用テ元氣ヲ取タルヨウニスヘシ又此
並氣湯附子ヲ加テ用ルモノアリ四君子湯附子ヲ加テ用フモノアリ大抵參
附陽心得ニテ用レニ然しに甚病ニ緩急ノニツアリ此ハカクニハ其病ニ
アルヘレスヘテ補氣附子ヲ加ヒテ補氣ト云モノハ氣効ユルクナ沛安レ附
子ト云モノハ其性大熱ニスルトク極キ多シユノ左ニ能氣力ヨンコラア
タツケル▲岡本先生脫血訣ニツ氣ヲ補ハ訣ニツヒテ余モ示ロ
訣アリ我門ニテス丁左ノ如シ

血脫治法弁

方考曰血不足者四物湯主之氣血者人身之儀

也天地之道陽常有餘陰常不足人與天地相似故陰血難成而易虧
是方也當飯苟草地黃味厚者也味厚為陰中之陰故能生血川芎
味薄而氣清為陰中之陽故能行血中之氣然草木無清何以便
能生血所以謂其生血者以當飯苟草地黃能養五臟之陰川芎
能調深中之氣五臟和而血自生耳若曰四物便能生血則未也師曰
血不足者以此方一調之則可也若上下失血太多氣息機微之際則
四物禁勿服之所以然者四物皆陰藥者天地閉塞之令脈所以生
萬物者也故曰禁勿服之ユノトヨロニロ山甫曰通^{トク}四物湯ハ君羊門
利ニテ血ヲ生スル事方ニ非ス實ニ血ノ生ル事亦ト云ハ岡本先生ノ云コトク

四君子湯四君子湯
 治湯參附湯補中益氣湯ヨノ四方ノ如キハ能血ヲ生スル草方
 トニヘシ然レ此ニハタシノ謂アルセイ或人問曰四物湯ハ血虛ノ証ニキワメテ
 用ニベキ處ベキ方ト云々ハ諸人皆知レトコロセイ血ヲ生セスメ血虛ノ証四物湯ヲ
 用ル其ワケ知カタシ如血ヲ生セスハ何ヲ以テカ血虛ノ証四物湯ハ皆
 コレ廣ノ角ルセイ其謂イカシ言テ曰四物湯血ヲ生スルトナシト云謂ハ四物湯ハ皆
 隘葉ヲアツメテ一方トナシタル者故此四物湯ヲ羣陰ノ月ニ阴盛ナリ
 群陰ト云々月ヲ以テ言トキハ十月ヨリ十二月ニ至ルマテ君羣陰ノ月ニ阴盛ナリ
 ハ田ニモ圃ニモ種ヨミクニ五穀ヲ生スルフナシ山林モ亦草木枯ハテ、芽ヲ
 出スフナシ是陰サカシナルカ故物ヲ生セサレ、四物湯ノ血ヲ生ズルトナキモ此理
 ラ以テワキニセイ知ルセイ或人又問曰四物湯ノ血ヲ生スルトナシト云謂預メ甚
 理ヲ知レリ四君獨參益氣參附血方ノ如キ血ヲ生スルト云謂イカシ言テ
 曰四方ハ皆陽葉ニテ補氣利天地ノ物ヲ生スル正月ヨリ寔ニ至テ草木
 芽ヲ出シ五穀モ榮カゲルテ敏急トリ皆ユノ陽月ナル故草木五穀モ右ノ通り
 前リサカヘル今此四方ノ血ヲ生スルモ甚通リコトナシテ四方能血ヲ生スルトキト
 會カシム行カシム別ニ無レサイアリヤ如何セイ曰深キ謂アリ其ワケハ四方ヲ用
 アルトニフ別ニ無レサイアリヤ如何セイ曰深キ謂アリ其ワケハ四方ヲ用
 テ直ニ血ヲ生スルニハ然ス四方ヲ用テ其氣ヲ補キハ飲食能進カシム飲食
 カ能ス、メハ血ハ自然ニ生スルニ血ヲ生スルモノハ飲食ニ在テ四方ノカミテハナ

之四方ノ只氣ヲ補テ食ヲスムに計。四方血ヲ生スト心得ルハアンスヘ
 テ人身ノ氣血ニ於ル飲食ノ力ニヨリテ能生ジユクモ。ナカ、草根本皮ノ
 能生スル處ニハアラスト知ルヘシ又氣ト血ト人身ニアル理ヲ云。ナハ血ハ陰ニテ
 妻ニ氣ハ陽ニテ夫トスヘテ妻ト云モノハ夫ノカケヒキニヨウテ身ヲ保ツモノ
 ハ君夫ノカケヒキニキヌルキトヨロアルカ及ハサル處アル所ハ其妻タルモノ亦同ク
 身ヲ保ツノ能ハツメ甚キトキハ其身ヲ亡スニモ至ル。コノ理ヲ人身ノ氣血
 移メ考ルトキハ能知ル。血脫ト云。産後金瘡等血ヲ多出スコレカ血脫
 スルトキニ至テハ其夫ニ属スル處ノ陽氣ヲカタメ補フトキハ妻ニ属スル血ハ
 自然止テ出サル。テサルトキハ残ノ血人身ニ止ル其内四方ヲ用テ陽氣ヲ
 補トキハ彼夫ニ辟言ルトヨロノ氣ヲ勢ヲテ飲食自然ニスム飲食カス。メ
 血モ亦復テ生スル。此理ヲ以テ四方能。血ヲ生スルト云ワケ合点スヘシ
 血ハ水ノ類ニメ陰ニ水ノ性。下ルヲ以テ性トス高キニ升ル。理ナニコノ理ヲ
 以テ察ルトキハ血。人身内ニ於テ下焦ニコケ流レテ上焦ニハナキ道理。然ニ
 云今血ノ人身ニアルヲ察ルニ頭ニモ手ニモ腰ニモ甚外周身ニ充滿テシ
 ベナリ。賦テアル。下焦トテ血カタクサンアルニモアラス上焦トテ血カサクアルニモ
 フラス筋ヨク周身ニ敷クバリ。テアル。何等。謂ニテ如毘血ヲホトヨク賦ルヤ
 是外ワサニテハナニ氣事。氣ト云モノハ頭上ヨリ脚下ニ至テ。氣ノ賦ラ
 ナル處ハナニ。人身ノホコト温カナル。皆是一氣。周流スル處ナレハ。其

氣ノ布及ス處血モ亦此ニ従テ周流ス妻ハ夫ニ従ウカ常ニ此理ト同レ
 ノ理ニ因テ見ルトキハ血ノ周身ニホトヨク賦リアル理明白ニ知ベシ且入
 小便ヲスルキ何程小便カテタク思フトモ疊ノ上ニテハ小便ヲスル處ニ永ク
 ト思フトキハ決メ一滴モ通セスソレハ小便所行トキハ則通ズ其通スルト
 通セサルトハ何物カ支配メ下知ナヌヤコレモノニテハナニ一氣ノ開閉
 ミツテ通ト不通トハアルトニユリ置ノ上ナレハ小便ヲスル處ニハ根スト氣ヲ
 張トキハ通セスコハ小便所ナレハ通メモヨシト氣ユルストキハ即通スエ
 ノ通ク無形ノ氣ハ有形ノ血ヲスヘク、ツテ居ルモノニ其總括ルトコロリ
 氣ニシテリナキハ感ハ寐小便チナニ遺尿失禁ノ患アリ此氣ニルミ
 クワログ處アルカユニ然レハ脫血ヲ止シト恩フトキハ右ノ四方ノ如キ陽氣
 ナステ其氣ヲ補ヒ助ケキハ元氣勢ヲ得テ血ヲスヘクルカニ愈シ蓋
 テ脫血ヨニ止ル故ニ吳山甫カ口訣ニモ上下失血太多氣息機微ニ際
 則四物禁勿喫トイヘル意是ニテ知ルベシ又四物湯ノ用ヒアシハヒ
 モコレニテ知ルベシ又玄治翁ノ口訣ニ血大ニ下リヌリトテ俄ニ血ヲ倍
 ナラヌノ如此病延ニ血ヲサント療治スレハ元氣愈衰テ先スルナリト
 アル謂是ニテ明白ニ知ベキコト四物湯ヲ血虛ニ用テ相應ニ益ヲ給
 効アルトハ其益分ニ潤シワケルトキハ其陰血自然ニ和メ病カ痊ニ
 生ト云ハ大イニアテノチガウタルトイフ位ノモノニ元陽虛弱ノ人太養

热脉浮大ニメ無汗治スルが如ク出ルニ此方専用^ト或附子ヲ加テ用
 ルモアリ又ハ解散ニ附子ヲ加テ用フモアリ汗キヨウズイノ如出ト云ガ
 此方^ト自的^ト▲大虛ノ人辛勞苦勞ノ後感冒ヲ煩フニハ此方ニ羌活
 防風加テ用ルニユノ見合ハ各其事^ト條下ヲ考ヘシ▲傷寒ニ
 敗毒散^ト或ハ癰汗ノ剷ヲタタ用テ汗出スギテ殊ノ外ク名ヒカワキ
 口中ニテ久ト^ト声ビクニ譴^ト言^トナトヲ云テ拵氣カアツテ腰虛ニサシ數
 アリ^ト此方ヨリ▲傷寒愈テ后洛ナトシテ風^ト中ラレヌ^ト或食物ニ傷ラレ
 再癰メ拵氣イテ元氣ツカレ譴^ト語ナトライヒトカクアトサキ同ジト計
 ナムウワユトニ此方ヨロモ或益氣養神湯加味益氣湯^ト甚^ト善^ト
 其内^ト傷寒^ト產テ后再癰ニハ先益氣養神湯ヨシ但病証輕^トハ八解
 散ヨシ又是ヨリ輕^トハ藿香正氣散ヨシ右ノ革方トモハ元氣ノ虛^ト也
 病人ニ用ル^ト元氣サノミ虛セス當分^ト内傷外感ナラハ不換金正氣散
 参^ト薦飲ヨシ▲傷寒ノ^ト隕証^ト專^ト用ル方^ト又勞役ノ傷寒ト云^ト
 骨ヲオリ辛方ナメ口倦シタルニハ此方カ加味益氣湯ヲ用ユ若効ナクハ
 附子ヲ加テ用ユヘシ▲傷寒愈テ後來タ元氣本ノ如復サルキ辛勞ヲ
 スルカ又ハ隕事ヲ犯スカスレハ再癰スルモノ^ト是ニモ益氣湯^ト附子ヲ加テ用
 カ益氣養神湯ヲ用ルカ何ニモ此ニ^ト中撰用ヨ隕事ヲ犯セハ必小
 便^ト治^トモノ^ト又多^ト隕事カ腫モノ^ト女^ト小腹ユワリ痛毛^ト人信テ

隘事ヲ犯セシヤト尋子カタキ片ニ右目的ヲ以テ知ルヘン▲傷寒ニ隘易
 陽易ト云フアリ是ハ傷寒ニ未愈ウチニ隘事ヲ犯メ男ニテモ女ニテモ
 ウツリテ頻フ延キ云コレニハ益氣養神湯ニ燒焜散ヲ合メ用レヨシ又
 燒焜散計モ用ニ▲傷寒ノ後餘熱サシアリテ元氣クヌヒシテ下陷
 ワヨキナリ必血崩トニテ血下ルワアリ此方ヨシ元氣サノニ虛セス熱辛
 餘程ワヨクハ黃連解毒湯ヲ用ニ或四物湯ト解毒湯ト合用ルツモ
 アリ或涼膈散ニ宣キツモアル▲元氣虛陷メ下陷シタニ益氣升セタ
 キ計ニテ升麻柴胡ノ寒ニライヤト思フトキハ此二味常ニ火ヲ忌ム此より
 サシ妙テ用ナリ又酒制製ニ妙用ルツモアリトカク脾胃虛寒ノ弊人ニ
 用ナトキ必升柴ノ二味ヲハサ用ユキ▲產後ナドニ血多ク下リ渴
 芎歸湯或四物湯ノ類ヲ用ル此方サシ用テモ血止テラサルトキ益
 氣湯ヲ用テ即効ラルニテ其氣元氣ヲ引升セハ其血自然ト
 止ニル道理アレバ脱肛泄痢病ナトニ用モ皆コノ意之物メ諸
 病血下ルニハ此マヨロ忘ルカラス山崩漏帶下ナトニハ芎歸湯
 或ハ黃連解毒湯ヲ用ルニサレ止カタキニハ益氣湯ヲ用ルニ益
 氣湯ニ川芎ヲ加レハ芎歸湯モ方中ニユモツテ花ニ半產後血大下リ
 テ止サルモノハツ黄連解毒湯芎歸湯四物湯涼膈散トノ類ヲ用エ
 是ニテモ血止ラズ脈細數ニナリテ既ニ先セトスルニハ此方ヨリ大創ニメ

用ル川芎ヲ加テモ准又年產シテ五日血止マラガルトキハ肱渾人事

佳

ヲ知ラサルニ此方ニ川芎ヲ加テ用ニ痢病日久勞倦甚ク後重ニサルニ、此方ニ木香桃仁ヲ加テヨニ此方ハ心肺ノ陽氣ヲ升セ腎肝ノ陰氣ヲ

降ス功ナルニヨウテユノ通ノ病証ニ用ニ日久ト云ニ熱氣渾キ痢病

ニ此方ヲ首トメスハテノ補剤カロシク用ベガラス痢病ニ木香桃仁ヲ專

ニ用ルハ醫學正傳ノ痢病門ノ芍藥湯ノ方后ニ血ヲ行スキハ便

腰自ラ降キ氣ヲ行スキハ後重自ラ痊トアリコノ意痢病ノ肝

心ノ方論ニスヘテ痢病ニ補中益氣湯ヲ用フ大キニ目的アルフ

之因テ其目的等ニ痢病療治ノ次序ヲ爰ニ記メ我門人示テ

痢病医王

心ノ方論ニスヘテ痢病ニ補中益氣湯ヲ用フ大キニ目的アルフ

如ニ先痢病ヲ治化心得ハ三ツニ分テユ、ロヘシ其ニツハ虛痢虚痢、虛寒虚寒、ユハ

ニツハ虛痢ハ其人本力虛證ニ、痢病ヲ患ルカ、或、又其証モト寔、証

ナレ、臣痢病ノ為ニ虛スルカニテ虛痢トナルモト是ニ實痢实痢、邪氣寔メ

甚元氣モ寔メ食モ能ノクウ、痢病コレ實痢、而虛寔病ト云ハ虚

ト思ヘハ虛ニ見實ト思ヘハ寔ニ見、虛寔別ラヌ、痢病ヲ虛寔利

ト云又邪氣寔メ元氣ハ虛ニ元氣ハ寔メ邪氣ハ虛スル等、類ニ元

虛寔痢類、此痢病ヲニツニ分テ治スルアラムレサテ虛利ノ治法ナ

キヘシ大腸被邪壓下之重至圓後甚仍在大腸虛滑之重至圓。

後隨減コノ圈無アレキ六字痢病ノ虛寔ヲ知ル肝心コロヘ此

处ニ就スルトキハ痢病一通リニオヰテ晴キノハアルヘカラス能く覓テ
 其用便スヘキモノ先被邪壓下ノ重ト云ハ痢病ノ邪氣力大腸
 ヲ壓^{オヌ}ニヨウテ肛門カハリサケレヨウニアトハリテクル^ト壓^ヲ字ニモトコウノモノ
 ラオスナドノ壓^ヲ字ニテ上カラオシカケルナトニ用ル字^ヲイテ被邪
 壓下ト云トキハ痢病ノ邪氣力大腸下リアツテ肛門^ヲ壓^ヲ
 カケルト云義^ヲサテ重ト云字ハオモイト訓テ大腸ニ邪氣力集リ
 下^ヲキハタトハカウノ物ナトニ壓^ヲスルカ如ク肛門^ヲオヌ^ニ肛門^カ
 重トオモクナウニル^ト此重^ヲ字ナシキナク俗ニアトハリテクルト云辭^ヲ
 重ノ字ニアタル^トサテ圓ニ至テ後其重仍リニアリトハ俄ニア^ハ張^テ
 未生^ノ三廁ニ行テ見リニ存ノ外膿便^ヲ下ヨシマタ下ニシテモ其肛門
 ハリハ愈^シコウナツテ苦痛スル^ト後ニ圓ヲハナル^トカイヤニナ^ハト
 ワニテモ居タカリテ苦ム是^ヲ寒痢^ト後重ト云此証アラハ寒痢ト
 為メ療^ススヘシ其事ハ大黃本喬ノ一味ハナスヘキ第ニララス根
 柳子亦同ニ何方^ヲ用ルトモ此味オヰテハハサヌ証ト知ヘシ是^ヲ寒
 痢^ヲ治スル事^ヲサテ大腸虛滑^ノ重ハ虛滑^ノ滑^ノ字ハナメラカト訓
 テ大便^ヲヒヨロヒヨロト出ルクラヒノ症^ヲ滑ト云虛滑^トハ元氣力虛^メ
 大便^ヲナメラカニ出ルト云^ト重ハ上ニ言通リヤハリアトハル^ト圓^ニ
 至テ後^ト喊トハアトハツテキテ大便ニ行タクナルニヨウテ廁ニユキ^{リキ}

リキメハ大便ニヨロヒト出ル其大便カ一ツヒサモ通スレハ通ジタヒニアト
ハリカ直ニウスクナヒテ未ルヒ多ク通スレハアトハルキミハサハリトナクナ
ヒコガ亥ニ云大腸虛滑ニ重至圖後隨吸トモノヒ是ハ虛痢
ヘ實痢ニハアラス是何ニテハク大便ノ時後重ノモヨウニヒテ虛ト
實トキ別ル肝心自的ノ脈ハアテニアヌフモアリ此口訣ニオヰテハ
百人カ百人ナカラ當ニナル口訣ハ而大腸虛滑ノ治法ハ補中益氣
湯ナトノ如升提ノ刺ヨヒテ下陷ノ氣ヲ升提スルキハ其病
速ニ治スルニ又下陷ノ氣ナク只虛ニタルニテニテノ病病ハ四君子湯
ニ升麻防風ナト加テ其証治スルモノアリ何ニモ虛痢ノ治方也

木香茅ノ類ノ加味ハナスヘキ葦ヒアラス其外主方此末ニタヒ記スルハ
ニ云略ス或人問曰今ノ示ニ依テ見レハ後重ノ一つ誠ニ治利家ノ肝要
ノ目的ニテ脉ヨリモタシカニ然ニ實利ハトウイウ謂リステ其室仍ニテマ
カニタヒ回病ノ邪氣カ門ニ集テ壓ニ(=)門カ重ノナウテアト
ハニ是莫病ナルカユヘニ又虛痢ノ後重ノ大便下テ后ニスワカリト後重
ナクナル謂ハ是ハ肛門ニ聚ル邪氣ナリモノ七八分を辛ヒテ残三分ノ
邪カ肛門(アツマルトキハマトハリ)又元氣虚メ下(ユケルカ故ニキル)
氣カ下(サカツテクルニ(=)肛門ハル)然ニ虛痢ノ後重ハ七八分ノ下陷
ニ三分ノ病邪ト此ニカ肛門ニ集ルニ虛痢ノカタニモ後重ハアル

后重アレニ其大便通シテハ先シハラクニアト、壓カキ邪氣カナキ
ユヘニ則后重速ニ減シウスクナル、故ニ圓ニ至テ後重仍リニアラ以テハ
実痢目的トナシ圓ニ至テ後重隨テ減スルヲ以テハ虛痢目的トハ
アヌフニユレ実ニ神仙ノ妙訣ナルモノ。

補中益氣湯治後重辨

スヘテ利病ト云モノハ大便カシケク下ルユヘニ

自然ト其下ニワシテ氣モ亦至テ下陷シ易キモノ、故ニ實痢トイヘニ
久キヲ經ルトキハ氣カ下陷メ虛スルモノカ多シ下陷スルモノハ升提セ
ハアカラヌ道理明白、足レ升麻柴胡ノセヒ入用ノ場、虛スルモノ
セヒ補ナハ子ハナラヌ道理、足人參、白朮、黃耆等ノ入用場也。

裏急後重之弁

謂ヲ以テ補中益氣湯ハ痢家ノ最要剤タルヲ知ルヘシ

裏急後重之弁、痢病ノ証ニ裏急後重ト云アリ、裏急急俗ニ
セセワシナイトニテ之後重ハ俗ニテアト、ハルトニテ之後重、後、肛門ノイ
証ニ裏急ト云ハ急ニ大便ニキタクナリトテニハシナリセワシナクイキタクナ
アト、ハツテキテ肛門ニ迫リ若シテ思ノ外大便カテカ子ルヲ後重ト云
ユレ裏急後重ノ辨ナリ

裏急晝圓頻汚衣者氣脫也

ト云アリ是ハ大便ニ急ニキタクナニ
依テ圓ニ行シト思コロカ、下多ビキサスト直ニ大便ノ肛門ヨリヒヨロコト

口
玄
梅
ナメト
膾
ト
別
ニ
可
考

出テ衣物ヲ汚スヨウナルヲカル痢病ハ氣虛氣脫ト心内ヨト云コト

ナリ是氣虛ノ肛門ニシテリナキユニ如斯忘ヲ見スソレハ補中

益氣湯ニ當飯ヲ去テ木香ヲ加フ其モノハ附子ヲ加フ或ハ四君子

湯ニ附子木香ヲ加フ下陷甚キモノハ更ニ升麻防風ヲ加フヘシ

至圓僅下膾血一粒後重墮喰大腸虛滑

トニアリ膾血トハ俗ニ云ナメト

ノノ急ニ廁ニイキタクナリ登テ圓ニキスムトキナメノ大便豆一粒ホトニテ
モ下レハソレタケニ后重ノキニ墮薄グチリニ粒ホトモ通スソレタケニ後重ノ

氣味カ輕クナリ是ハ大腸ノ虛スルヨリ起フトニシニハ真人養

臍湯或補中益氣湯ニ附子ヲ加フ但此証ニ豆ノニ方ヲ調合スルニ

心得アリ大腸ノ虛滑ト云ニ眼ヲツケテ調合スル中ハ真人養臍湯ヨシ
又元氣ノ虛陷ト云ニ目ヲツケテ調合スルキハ益氣加附子ノ方ヨシコレ
其心也或人問曰大腸ノ虛滑トハイカン善曰大腸ノ虛滑ト脾腎
ノ元臟ノ虛スル虚セサルキ次ニメ惟大腸ノ氣カ虛メシラヌヨリ其大便モ
ヒヨロヒトナメラカニ通スルヲ大腸ノ虛滑トハユノ療治ノシヨウハ大
腸ノシラヌ脅ノシリヲツケテ元氣ヲ補トキハ其虛滑治スルヲ虛滑
カ治スルキハ痢病モ全快スル此通ノ大腸ニシテリツケル草名テ虛滑
剷ト云ニ張滑ノ剷トナメラカナル大便ヲシララシタルトニ意ニ張滑
ノ剷トハ云ニ其張滑ノ系ハ訶子肉豆蔻罂粟壳赤石脂禹餘糧阿

芙蓉等々如キ是々此流滑ノ利ヲ痢病ノ虛滑用リト假令小兒
 ナト誤テ流柿ヲ食トキハ大便カ秘メ通セヌコアルモノ是何故ニ通セヌナ
 ハ流柿ノ流カ大腸ヲシラシカタルユヘニ通セヌ此ト同ニ流滑利
 ヲ痢病ニ用ルハ此流柿ノ大腸ヲシルアレヒヲ以テ便フヘリ是痢病ニ流
 滑ノ利ヲカウ意ユノ通ニ今養臍湯内ニハ訶子蜜棗穀肉豆
 蔥ト云流滑ノ業アリ故利病ニ此方ヲ用シテ大腸ニシテ大腸虚滑ト云ニ眼
 ヲツケテ調合セヨトテ是解胃ヲ吹ニ大腸ニシテリク先立ナ
 リト知ヘシ又大便ノ虛滑スニ脾胃ノ氣下陷メ上ヘ升ラヌニモ虛滑
 証アリ其レニハ補中益氣湯升提ノ利ヲ用テ其附シトヨロノ虛陽

スツトツリキセリヨウニスハ其虛滑カ治スル其謂此証脾胃ニヒラシ
 テ大腸ニシサイナント云クラヒノ症ニ然ルキハ益氣湯ヲ用レハ其大腸
 虛滑ト見シ証ハ流滑ノ利ヲ用ヒス只附子一味ヲ用テモ虛滑ハ治ス
 ル道理ハ是虛滑ニ養藏湯ト益氣湯ト使ヒワカレハキナリ故大腸ノ
 虚滑ニ目ヲ付テ用ルトキハ養藏湯ヨニ脾胃ノ下陷ニ目ヲツケテ用ルトキハ
 益氣湯ヨシト教ルモコレカタメ

脉浮大え弁 **ス**テ諸病ハ脉浮大ニウモノハ熱証ニテ寒ナシモノ多ニ
 痢病ハソレトハチカヒテ脈ノ浮大ナルニ存ノ外虛証多シ必ス誤テ寒熱
 陽証ト思ヘカラス或人問曰脉ノ浮大ナル者虛証多シト云其謂イカン

善曰痢病匱于其陽内ニ虛スルヨキハ外ニ飛越シテ散乱ス此ノ假熱ニテ
寔熱ニハアラス壁口ハ油ノ盡シ燈火ヤカテ消ントスル前ニハ必スハツト先リテ
エスモノハ虛痢ノ脉ノ浮大ナルモ其理ニ守シ脉浮大ナリトテ其序大ニ眼ヲ
ツケテ實痢ノ瘡治ナスルトキハ大ニ其治ナリトテ其序大ニ眼ヲ
ラメ浮大ナラシムト多シ必ス温補ノ刺ニヨロニ

痢病治法辨

スヘテ利病ナ治スルニ心ナリ実利ト見シハ寔痢ト
ミハ虛痢ト見シハ虛痢ト見シテ其虛寔シクト定メ難キキハツ逆挽
湯如キ温補ノ刺ヲアタヒテ見ヘシ若其証寔痢在中ハ其温補
サワリテ度敷モテシ拵モ益食モ減イロヒ詭証アシクナルモノハソシ

ナラハ急ニ業シ寔痢方ニ轉メ用ヨスヘ利病トモハ補業ヲ用テイツメサ
ワリアツテモ直其損トリカヘシノ出キ易キモノハ補業ノ害トサモアラヒ
ノモノニアラヌ又虛痢ノ証ニ誤テ苦寒、躁滌ノ刺ヲ用ヒトキハ其害舉テ
敷ツベカラス甚キモノハ業ニ依テ先証トナルト而多シ右云通り虛寔難
治利病ニハ必温補ノ刺ヲ用テ其敷ヲ決スベシ取カヘシナラス苦寒ニ
用ヒヨリトウカシノハ温補ニ用レコレ最上ノ良法也

虚痢目的之辨

下痢、脉沈小、陽証ト心煩(ほ)大ナリモノハ陽証
ナリト心煩ヨト云口訣アリ此ヲ試ルニ多ハ其力子アヒ違ワヌモノ沈小
虚痢ニテリコラ脉ナシモ反テ寔痢多アル脉ノ浮大ナルモノハ實

痢マラリソリナ脈ナレ氏虛痢多キ脈ユノ沈小ハ指ヲ沈キ沈少
 内ニカラアルヲ観ル脈又浮大ハ脈ニトリシトナクフワヘト大ケ根キ
 脉此は大ハ必ス虛利証ニ初ヨリアルマリニ中ヨロヨリアルモ
 マリ何レモ浮大ニクルハ虛痢ニテ脉ト心乃テ十人元人甚カ子ア
 ハルナシ▲初発ヨリホカムト極アリ舌ニウスク胎モアリテ不食シ脈
 多ハ浮或數或緩大等ニ走ルモアリ此証ヲ見スモノ多クハ虛痢ニ元
 カヨウニクルモノ老人小児ニトリツケテ多シトカク實利ハ沈寔虛利ハ浮大
 浮數浮緩ニクルモノト心乃テ甚カ子アヒハリヌフ而甚下リノモヨウハ効
 癰洩鴻五六行メ後血痢度スルモノハ大渴大極等チ

逆挽湯

見スニ至ルマニオヰテ医者誤テ實熱リナニ考葉湯導滯湯如キ苦
 寒ハニ兼テ用テ治ヲ誤ナシ此時ニオヰテ不換金正氣散ニ乾姜桂枝
 木香縮砂ノ類ヲ加テ用ルモノカ又逆挽湯ヲ用ルモノカ此ニ方ノ内ヲ
 選ヒ用ヘシ逆挽湯ノ方ハ 蒼木肉桂茯苓乾姜枳殼其外
 生薑人參右ハ味木煎湯服コシ即名古屋翁制スルヨロノ逆挽
 湯ニ有如ク痢病ノ虛ニ属スルモノラ治メ大効ヲ取フ甚多シ又不
 換金正氣散ニ枳壳木香枳殼子桂ユリ四味ヲ加テ虛實ヲ問ス推
 用ルキハ効ヨトルト亦多シ此三方虛痢ノ諸証ヲ治メ至極良法ナリ
 又虛痢初發ヨリ食ステ元氣大虚スルモノハ四君子湯ヲ以テ乾薑

肉桂縮砂附子ヲ加テ用ニ。此方ハ連挽湯不換金正氣散加味
 ノ証ヨリ一等重ノ虛ニタルモノニ用テ可。此時虛寒、其キトキハ蛇
 吐カ下スカルヲアリコレハ其胃中ノ虛寒ニテ虛計ニハアラス故、蛇虫ヲ
 下スルベ其トキハ更ニ下番ヨリ加用ベシ。右ノ方ケモハ虛利初発ニ用テ
 効アル方トモ、我徒コレヲ試テ可。其肉方ノ序方ヨリハ、不換金ニ
 桧殼木香、枳榔桂四味ヲ加(タル方)ハ虛利初至テ輕キモノニ用ヨ。又
 不換金ニ乾姜桂枝木香縮砂ヲ加(タル方)ハ又一等重キモノニコレヲ
 用ヨ。逆挽湯ハソレヨリモ亦一等重キモノニラレタ用ヨ。但シ其虚ヨオトミヘ
 テ枳壳ナトモイヤニ思ナラハ、枳殼ヲ去テ唐白朮ヲタクサンニ加コラ用
 ヨサテソレヨリ五テハ大溫補大熱劑ヲ用ヒアラヌシハ、枚フアメワスンハ溫補
 モヨウ一既ニ云レヌフ。此ニハ惟虛利ノ初發ニ實利ノ主方ヲ施メ療治ノ
 テチカヒヲトラバジキタメニ記スモノ。是虛利初發經驗ノ處也。

治痢經驗、此書ハ治痢ノノ書ニ書物、三河國加藤忠懿ト云人、
 作ニメ痢病ノ療治付テハ甚親切イテ多シ。初學ノ徒兼テ一覗ス
 ヘシ則右ニ云トヨロノ說モアリ此書ヲ本トメ經驗ニ及ヒタルヲ記セシム
痢疾病因之弁、痢病人病因ト云ハ夏後秋前六七月頃ニ當テ
 時候ノ濕熱傷ラレモトヨリ腸胃二臟垢アルモノサク飲食傷ラレ
 一ヒ脾胃ヲ動メコノ痢疾トナリ。熱ハ血ヲ傷ユニ、膿血ヲ便ス湿ハ氣ヲ

涕スユニ裏急後重スユナ以テ血ヲメクラストキハ便膿自愈氣ヲ調則
後重自降トアリ乃此ハ名古屋翁痢疾病因ノ弁ニ然ルトキハ痢
疾ハモト腸胃ノ湿熱ヨリ起ル明カナリ

痢疾藥品之辨

總テ痢疾ヲ廢治スルニ木香桔榔子芍藥桃

人當飯大黃ユノ六味少スハナセ品ノコノ六味ノ役割ヲ知ラサルヨキ
廢治二月的ナキユヘニ自ラカニアヒハツレテ誤リ多シ故ニ其六味ノ役
割心内ヲ記スフ左如レテ痢病ニ後重ノアルトニモハトウイウ
謂ニテ有トニコレハ氣滯滯ヨリ起ルニ肛門ノ手ノ流序スルキハ氣
テ肛門ノ閉塞ニヨウテ後重スルノ共滯滯スルトヨロノ手ノ行シ破レモ

ノ木香桔榔子ノ役ニ木香ハ能氣ヲ行スモノ桔榔子ハ氣凝
ラホコス掌之左ニ後重ノ強キ証ニハ此木香桔榔子ニ味ハ必虧ヘ
カラサル品ト心得ヘシ然レハ後重ハ氣ノ肛門ニ滯滞スルテ明ニ是后
重ノワヨキニ木香桔榔子ヲ用ルトヨロノアラマシニ又當飯芍藥桃人
ニ三味コ用ル心得ヘ、膿血ヲ下ス証ニ用ニ湿熱血ヲ破ヨリ血膿ハ起ル
証ニソニ(當飯ラヌテハ諸掌ノ血分ニ道キ芍藥ヲ以テハ血ヲ和エ
桃人ヲ以テハ其シユルトヨロノ惡血ヲ破ルコレカ當飯芍藥桃仁ヲ用ル心内
ノ然レキハ此三味ハ便膿血ヲ目的用ル三味シト知ルヘシ又大黃ハ其
濕毒ヲモラヌタメノ品ニ即前ニ云トヨロノ至圓其後重仍在大腸ニ

邪實トニカ乃太黄ヲ用ニ目的故ニ大黄ノ一味ヲ疎滌ト
 云ニ木香桔梗子テ氣ヲ行シ當歸芍藥桃仁テ血ヲ和メモ大黄
 テ疎滌セサレハ劇毒大腸ノ内ニユリテ患チナスト深シ故ニ大黄
 テハ劇毒ノ根ヲ去木香桔梗子芍藥桃仁五味テハ氣血
 ノニワタメクラスト是上味ノヤクワリノ治方ヲ通リ此心得ヲテ劇
 滌ニ木香桃仁ヲ加テ用ヨト有モ医王テハ其虛ヲ治シ桃仁テハ惡血
 ヲ破リ木香テハ氣ノ治滌ヲ行スト云意ヨリ木香桃人ヲ加呆シタ
 モシ一方事ニ辛品ヲ如斯カケヒキシテ加味スルトキハ劇病瘡滌カ子ア

ヒハツレスヲト知ルベシ**腐肉痢之辨**

治痢神書曰今之凡患瀉痢者正以五内受傷脂膏

不固故日剥而下若其藏氣稍強則隨生猶無足慮若藏氣至
 剥剥削至盡或以久鴻久痢但見血水及如屋漏水者在庸人乃
 立其積聚已無反稱為善而不知脂膏刮盡則敗竭極危之候使今
 後醫家但識此為脂膏而本非積聚則安之固之且不暇而尚敢
 云政之逐之或用苦寒以清之利之者上否又証治要訣曰諸病壞
 診久下膿血或如死肺肝色雜下頻出有類於痢俗名刮腸此乃
 腸腑俱虛脾氣欲絕故腸胃下脫投痢藥則誤也六柱飲加付

子乾姜▲又曰久鴻久痢見血水或屋漏水者者非邪腸脂膏可固滻之可補之可溫之養癰湯之類▲又曰鴻後至膿血是腸胃血液脂膏非邪補利固滻之痢▲治痢經驗曰刮腸証屢視之世醫授痢常誤者多不治此証以孫氏壯原湯經驗之此方赤水玄珠治脾胃虛腫滿方中有破胡紙縮砂溫補中合三神丸有治脾胃浮之意上尤刮腸証必小便廿其終旁腫脹者多緣知之而以八味肾氣丸兼用之小水大利可免腫脹之患不不限刮腸証大便滑利後漸欲更腫脹者以壯原湯肾氣丸兼用之取効為多考夫虛脹已成及喘急等者雖投肾氣壯原湯峻補不視効為

壯原湯

豫防

者多唯豫察之可防於甚未然也恐是聖人不治已病而治未病之事辛矣▲以上云トコロノ諸說皆弔カイトコロノ腐肉痢ノ証誤テ此証若寒ノ痢用トキハ其尤必ノカルカラス慎テ温補固滻ノ剤專ラニ投スヘシ是肝心ノ見トヨリ或人曰右ノ說内ニ刮腸ト云ハイカナル義シヤ言ナ曰刮ハウト訓字ニ腸ハ腸胃ノ腸ニテハウタト訓字スヘテ痢病久ヲ經テ治セズトキハ邪盡テ大腸内皮カ邪ハニ蒸レ蘭レテ肛門ヨリ出ルノ是痢病ノ邪ニラス大腸内カ肉カタレテオナリ故ニ其病名モ大腸肉ヲ刀テ刮カ如シト云意ヲ以テ刮腸トハ名ケタルモノ足ハ虚証内ニ布虛証ナモノノ痢ニ似テ

實ノ廁ニ兆スソレヲハ知ラス廁病ノ療治ヲメノヲ誤ルト嘆シキフニ
アラスヤ此其主方モ純補ノ利ニテ補ハシナラヌ証ニ一味ノ廁常
施スヘキ証ニアラス或又問曰右ノ文中ニ血液脂膏ノ字マリコレハ
イカナル病名ソヤ言ニ白血液ハチノアフラト訓字脂膏ハ脂ノ字モア
フラ膏ノ字モアフラト訓字此亦刮腸ト同意ニテ名有久ル
病名ノ大腸ノ血液脂膏ノヘテ出ルトニ全シ邪氣ニアラサニ血

血液病
脂膏利
液廁脂膏廁ト只病名ノカワリケルトニコレ大溫補固溫之

利ニヨロシキフイワスニ知ルトノ子門弟子ニテスニ血液廁脂膏

廁刮腸ト、てワリ遠ク教テハ初生聞スミ過アラシコ恐ニ直

腐肉廁 廁肉廁ト病名ヲ章教ルトキハナハ肉カ腐ニテ成トニテ「廁病」

ニテハナキヨト直ニ理會ノユクヨウニ**腐肉廁**ト教ルモコシカタメニ後未雨
漏ノ媒水ナトノヨウニテル証又ハ鳥ノ肝ナトニ見ルヨウニ下ル証又ハ魚ノ
腸ナトヲ見ルヨウナモノ下ル証ニアリハ是必腐肉廁ナル程ニ甚心得ヲ以テ大溫
補大固溫ノ利キ用ユヘキ勿論ナリ

參飯芳藥湯之弁

此方ハ當飯芳葉人參茯苓甘竹山茱陳皮
縮砂右八味燈中烏梅蓮肉ヲ入テ水煎シ服ス廁病愈テ後ノ
調理ハ此方ニ據テ加減ス方中當飯芳葉有テ血分ヲ調人參茯苓
其叶有テ氣化ヲ調(山茱陳皮縮砂有テ脾胃ヲ調ヒ能飲食進メ

実ニ痢病ノ調理方一ノ方、初メ實痢ヨリ日數ヲ経テ元氣虛シトモ
 其痢治セサル事ノ証ハ大抵此方ヲ柱キトメ加減メ治スヘシ然レトモ
 元氣虛脱メ滑痢ニ至テハ別ニ益氣四君子四柱六柱養藏草湯
 ノ諸方アリ此方ノアツカル处ニハナラス然レヒ又此方ヲ用ニヤカニア
 経験アリ此方ハ加減モヨウニヨワニテ大補氏熱補氏溫補氏清補
 ト固補氏方ノ組ナヨシテキル方タテク他ノ方ヲ用ヒスモ補利ノトハ此
 方ヲ種々ニ組ナオシテ使フフ此方ヲ痢病ニ用ニ経験アリ今一二加減
 ノシカタヲテスフ左ノ如シ他ハユノ加減ノシヨウヲシテ推メ知ルヘ若元氣
 虚陷メ補中益氣ヲ用証アラハ此氣之柴胡升麻黃葛白朮ヲ加テ砂
 仁芍藥等ヲ去トキハ益氣湯用ヒト向意ナレニ若養藏湯用ヒ証
 ラハ此方ニ唐ノ白朮ナトナ澤山ニ加テ用キハ四君子ノ意モユモニ若養藏
 湯ノ如キ補淡ノ利ヲ用タキナハ附子肉豆蔻芍子赤石脂禹餘糧瞿
 粟穀阿芙蓉等ノコトキ固淡ノ系品ノ内ニテ二三味ヲ加ルトキハ至極
 ヨキ固淡ノ方モナルニ若禁口痢ニテサツハリト食ヲ喰ス冒ロニ熱
 アツテ吐ナトアルハ黃連ヲタクサンニ加(用ヒトキハ禁口利ノ主方モナル)
 若腹痛モヨク后重モ甚ク実痢ノ内ニ元氣ワカレテムサトシタ療治
 ナリカタシト見レトキハ此方中ノ人參、倍シ木香桔梗大黃ヲ加ヘ
 是虛实通治ノ方トナルニ若後重イワニモ除カサルモノハナシ升

麻防風ヲ加ヨ此レ虛陷ノ下重ナレハシ如虛座努力者血虛也當
飯芳草ヲ倍シ生地黃ヲ加フ右ノ如ク種々加減サシキスルトキハ十二
カ六ハ此一方ニテスムアルモノ他ハ此理ヲ推メ知ルヘシ

紅膿白膿之弁

膿血ニ赤湿邪入血分也膿血ニ向湿邪入氣分
ニ湿邪カ血分ノ入テ赤膿ヲ見トキハ當飯芳草ノ目的ニ湿邪カ
參入テ白膿ヲ見ストキハ木香桔梗子ノ目的ノナメノ赤キニ熱
トシ白キヲ寒トスルノ說ハ古人ノ定說ナレビニハ瓶ナリ赤白ノ別ハ只
濕熱ガ氣分ト血分ニ入ルトノ故ノミ紅白比ニノ湿熱ニ寒ナレモノニ
アラス赤キヲ熱トシ白キヲ寒トスル說必トルヘカラフ毛段名白屋翁說

アリ醫方問餘ヲ見ルヘシ

始泄鴻至膿血辨

スヘテ痢ノ病ノ受トウハ初ヨリ痢病カ又初ハ泄鴻
ニテ後ニ利病ニナリタルカノニワチ能く間ベシ若病ノ始ハ泄鴻ヨリ発テ
后ニ利病ナリシト云トキハ何程其病ノ寔証ニ見テモ此必虛証也
泄鴻因テ脾腎トシ傷し腹ノ虛痢ニ相違ナシ次メ湿補ノ剂ヲ
喫ベシ此証キツメテ壯原湯ヨシ便孫一圭ノ赤水玄珠ニ出タル方ニテ
方彙ノ水腫門出

寒、痢之辨

常ノ痢病ノ外ニ寒、痢ノニ三歳ノ少児ヨリ十三歳

童子ニ多クアル証ノ其証痢病ノ如ク裏急後重ハアレビ至テ輕キモノ

赤膿ヲ下スモアリ白膿ヲ利スルモアリ又財ニヨウチユキ食便ナト
ヲ通スルモアリ度數ハ日三十余行或ハ年度位ニ至ルモアリ熱ナク
食モ相應ニク元氣モ恰好ヨリハヨクメ頭ノテワリ瘦脹ハ思ノ外
脹氣味アリ是寒、痢モヨウ此寒、痢ハ痢病ノ癰治ニテハ一向
効キモノ虚痢ト見テ人參ナトヲ多調合スルトキイ其病治セサル
而已ニアラヌ反テ熱ナトヲ生ジ不食ナトスルモノ益亦因汽ノ利ナドヲ
用ルトキハ脹脹等ヨシテ大ニラテキニスルモノ此ハ痢病ノ外ニ一種
寒、痢証アリト云フテ知ラス医者ハ喜テ誤テ常ノ痢病通ク業
ヲ調合スルユニ右ノトオリノ誤ヲ取テ能く心ナツヒ寒利ト云アラ
従行メ合念スヘキフ此証ハモト疽癰アル小兒かニ寒、痢ヲ頻マニ
ヤハリ痈ノ業ヲ用ケハ痢病ノ療治ヲナサスニ多治スルモノ是此寒、
痢ノ証ニ消瘡退熱飲カラスノ霜ヲ加ハシム多ク効ク取シ此退
熱飲ノ方ニ青世保元ニ出名方ニ方彙ニモ疳門ニ足す載リ甚
外治瘻ノ主方イロアリ財ノ宣役ヒ其ノモリ選用ベシユニハ惟
予カ經驗ヲ記スノミ備又秘方アリコレ一大医家ノ方ニ甚方熊膽
龍膽射香散木撫拂子各等分細末メ丸トナシ辰砂ヲ衣トス此方
治一切ノ病ニ用テ効ヲ取シ妙ハナカニモ驚凡五疳癰積疳痢等
ニ此丸第ニ用テ甚神効アリ虛証甚小兒ニハ四君子湯使君子肉

ヲ多加テ煎湯トナシ此瓦第ヲ呑送ラシムベシ

三四

錢氏薦黃散之弁 又一種錢氏薦黃散宣寒利証アリ是。

亦常ヲ離タル痢^ノ其痢モヨウハ甚下ス处ノ大便ヲヨク見ニハ
別ラヌ^ノ其大便ヲ見ルニ青色乍ラ掌ニテ能モミヌルヨウニ青キ大
便ノ中ニ又ウス白キ糞^ヲマジテ通スルモノ^ノ此畫^ヲ通ニ痢病ハ
益貳散正面ノ痢ナリ一決メ此方ヲ用ヘシナハ九効アラスト云フナ
又一種此方ヲ用ルニタヒジ^ノ目的アリ其目的ト云ハ其病人ノ口ノ息ト
鼻ノ息トカ必冷にト云キハ足矣此方正面ノ証^ノコニハ少ニ限ラズ
大人ニモ通メ用ル目的トスヘシサテ無痢ハ目ニタル^ノ或ハ目カ酸弱^{カス}

或ハ雀目トナルモノ^ノ是モ瘧^ノ氣^ヲキハ目モ自然ト淡^スラアリ此亦心^ノ
一ツニ友松子先生此方ヲ経験スル條曰坂陽老學望月氏女子肌膚瘦
弱腹痛鴻廁不思乳食面色㿠白目無睛光口鼻氣冷其脈沈
遲已用參芩白朮散黑^ノ切散其詎弗瘳請予相識予曰此正合錢仲
陽益黃散之法源未決而命徒制長而與^ノ遂服至十餘貼証痊
八九後醫理中湯加陳皮收功ニ^ノ口鼻^ノ冷氣ト云^ノ同的^{二トリ}
効^ノレ^ノ此一物^ヲ見テを知ベシ其外東垣李氏月中寒^ノ吐腹痛鴻廁青白口
鼻^ノ中氣冷者益黃散神治ノ章方^トイ^ノリ又切要方義曰治脾肺寒
黃腹大好食泥土肺痛氣喘口鼻生瘡等証トアリ^ノ亦此方^ヲアテ脾

府肺癆治メ効アルヲ知ヘ文錢氏云少腹夜啼ノ脾臓冷子痛ニ益
黄散ニ宣トイリ不ミ亦此條ニ倣テ夜啼ヲ治スルト屢々吾徒コレ試
テ可ナリ

脉浮大之辨

治療經驗引醫學綱目曰下痢膿血相雜而脉浮

大慎勿以大黃下之必先謂氣下竭也而陽無所收凡陰陽不

和惟以陰陽之法治之▲愚云是虛痢而脉浮大者也早已謂下
痢脉大者多陰証虛痢也者是也若誤用芍藥湯類到不收

者是以大黃下之也故舉於前質之據論也愚予或傳旨俯合

乎夫諸病大抵脈浮大者雖多陽証下痢証不以脉大者陰証

也豈以苦寒疎滌雪上可添霜矣○條下痢○脈沈小ナルモノハ實
痢○浮大ナルモノハ虛痢○ト云條ト併考乎其理ヲ詳ニヘシ痢
病ニカキリテ浮大モノハ虛トナニテ治スルト足秘中ノ秘ヨクハ彼
行スベキナリ

建中湯之辨

醫通曰血痢初起腹痛並迫或脉數大身有微熱

有先醫示建中湯和之有肉桂伐肝和榮最捷○條脉數大熱等ア
レ証ニ多ハ有榮湯○如寒○涼疎滌○利モヘキ○此通例○而ニ
其寒○涼疎滌○用スメ初ヨリ補利○建中湯○用フハ是全ノ逆挽
湯不換金正氣散ノ類○用ル意ト同シ此トコロ最初ヨリ虛痢ニ度

スル用心リ前ニカニテオクトヨロノ療治シカタ)是眼目ノウケトヨロ)

真人溫脾湯之弁

溫脾湯方 大黃署人參甘草炮姜各二錢

熟附了一支右五味水煎其滓云積涼久極痢治布白良劑也以此方治一切痢疾為主劑又曰凡溫熱未除積滯猶存者雖欲於投疎滌脾胃已損難疎滌之故以理中固根本倍大黃疎滌之寒熱補鴻合劑實神仙之妙方也此異眼者難投之于其方也署大黃加一支附子助理中而回脾陽者足有精微之意焉凡痢疾主治不出于此法也蓋屬湿熱者初紀古人以為革湯疎滌之然病未愈中脾胃損多生虛寒到此時醫常束手莫奈

何焉夫雖疎滌品多甚功無如大黃此物去濕熱下積涼則痢亦急故以古方以一味大黃治之多焉然經日數則溫挑積滯未除脾胃虛寒亦急故以附子理中佐大黃疎滌中溫補脾胃也足於治痢法可無遺漏半惜哉孫思邈後專投此方者稀何也凡此証氣滯血不行腹痛裏急後重等兼証最多故醫常拘之反矣於治痢之本意焉夫虛痢之外者除溫挑之積滯溫補脾胃此治痢之大法也若氣滯者可加木香枳榔之屬血不和者可加芍藥芍藥之屬本此方臨機應變加減之治痢法則大備而已凡雖投何剤以此意準彼則即此湯意也古人云學仲景之法不用仲景之

法不用仲景之方治痢者血雖不用此方勝此方而知不用此方者則
治痢大法自然明乎一右文中湿热積滯未除脾胃虛陷又急也ト云
十二字ヨク味べしるユしてテ痢病療治アセタセ内ニ此証マアリ
是ヲ傷寒傳経熱証ニ未傳寒中ト云証アリユノ寒中理ト全ク
同ソノトキニ温補固涩ノ剂ニ泥テモニカヌ又疎懈ノ寒剂ニ泥テモニカ
ス邪氣モステラレヌ元氣モ補ヒタシトニカヌ此温脾湯の方ト知ルヘ
シ此場合痢病療治ニオヰテ大ニ入用ナルコニ弔從來痢病ヲ治スル
内此温脾湯ノ意ヲ取テ痢病療治ヲメ大効ヲトリシテモニ
左ノ如ニ一人痢ヲ患臘血ヲ便スル毎日三十餘行腹痛甚メ肛門サツカツク
ニトハリ不食甚先醫有蒸湯ノ如キ若寒ノ剂ヲ用テ無効アヒ續々度
數前ニ異ナルフナシ因子病家帝ニ治ヲ頼メリアリ乃足ナ診スルニ年足
甚倦怠メ月ノ見張カヒナク全ノ補中益氣湯ノ証ナ見シ脉ハ沈
寔ニニオヰテ所謂ノ肛門ノ苦痛ト腹痛ノヨウスヲ見シハ全ノ
實痢ニ又半足倦怠眼物無カヨ見シハ全ノ虚症然レハ温脾
湯ノ條下ニアル通り温热積滞未除脾胃之虛寒亦急也ト云
論此病人能合ヘリト医案ナ訣乃補中益氣湯ニ附子ヲ加テ煎
服サセ外ニ大黃一爻木香三分ニ丸を薬トナシウカワシ足ヨリ前湯
呑汁トメ用ヨトテス此方剤ヲ施スト十四五日ニヨホト快甚ヨリタニ

服系スルニ十餘日ニメ、痢疾ハ大半退、飲食モ略進、元氣モ
 失ヒフシカラツキタリ。其時ニ大黃木香丸ヲ用ズ、惟益氣湯ヲ。
 用調理スルニ三十餘日ヲ経テ全快シタリ。此医案ヲ以テ濕熱
 積滞未除、脾胃虛陷亦急也ト云。証痢疾ニアルトニヨタシカ
 ニ知ルヘシスヘテ、此外ニモユノ主意ヲ以テ治シタル病人、數多アリ。是ニ
 惟其一擷ヲ舉テ、他ヲ例スルノミ。▲治痢經驗之說曰。大黃今所
 渡称維^{ツキ}大黃者、佳本艸所謂穿眼大黃也。其稱鍛大黃者、午
 舌大黃而即醫和大黃岐^キ之岐^キ根同物。漢名羊蹄根也。不可用
 矢^ヤノ說、通り鍛大黃効ナシ用エ。ガラス^{ガラス}スヘテ大黃ノ標^{タケ}ヒヲカケ
 ヘシ今中華ヨリ渡ルトコロ、惟大黃^{セイカシ}。大黃ノ品成程ヨケレ凡然^{ハシ}之
 ヲ切ルニヨリ^{ハシ}トメ朽木^{ハシ}ヲ切カ如ク潤ナキモノハ効ウスレ此^{ハシ}キニテ重
 ミテ試ルニドロオモク涅^{ハシ}冥冥ニメカニテ切ニサレヤニアリテ其ヤニ庖丁ニツ
 ヒニテ切カタキ位ニヤニアルモノロニ^{ハシ}大黃ノ好品ナルモノ^{ハシ}兼テタシワ^{ハシ}オヰテ
 カル大病、財用^{ハシ}ニ^{ハシ}實ニヒヲ用テ効ク水^{ハシ}ハ^{ハシ}良品^{ハシ}ニ^{ハシ}卫^{ハシ}ハ^{ハシ}セレ^{ハシ}療
 治ニテキワリ無モノナリト知ルヘシ。又近來ヲメ^{ハシ}子大黃ト称スアリ。其性
 元^{ハシ}寒メ^{ハシ}香氣ハ^{ハシ}シク鍛大黃ヨリハ其力勝テヨケレ^{ハシ}唐ノ極上ノ品
 ヨリ其力ヨホト芳レリ緩キ病氣^{ハシ}ク用^{ハシ}トキハ此品甚佳甚
 外急効^{ハシ}トラニト欲スル病人ニハ必^{ハシ}唐^{ハシ}品^{ハシ}右ノ通り^{ハシ}卫^{ハシ}ヒ用^{ハシ}

是大黄ノアラヒカタ

三十九

如神丸

鯿魚膾え弁

香川翁白鯿魚ヲ膾トナレテ寒痢ノ証ニ餌食

トナサシム甚効アリト云リエニテ四五人云該父ニナルホト香川ノ
イワレニ通ク効ヲ取タルアリ然レバ飯ノサヒニ喰テハ効ナシロ其
膾計ヲ葉餌ニサスヘシ虛痢ニハ墜クコレヲ忌

阿芙蓉え弁

治痢経験云古ヨリ如神丸ト云名方アリニ莫

痢ヲ治スルノ方ニ甚方阿芙蓉黃柏没氣黃連沈香粉アメ

テ凡葉トナス其内阿芙蓉ハ惟大ニ固滻スモノヲ以テ大トナシ

佐スルニ黄連黃柏ヲ以テ腸胃ノ温熱ヲ去及葉血ヲ活シ痛ヲ止瀧著

氣ヲ降ニ腸胃ノ鬱結ヲ舒ユノを兼用ヒ方元氣寔メ湿熱モ大
抵ナリク十二望テ之ヲトノントスルトキニ豆ニ用テ即効アリ若肛門ノ
ハリツヨク積滯未除急ニ此を草ヲ用ヒハ大ニ害アリ或休息痢ト
ナムモノアリトアリテ此証ヲ見テツガウニテ休息痢ト云其利病
イワタニ快ナリテ又聲リヌヨクナリテ又紀ルモコレニス又毎年今年ノ五
月ニ痢患テ又來年ノ五月至シ前年ノ如ク又聲ルニ事金匱要
略ニモアル通ニコモ休息痢ノリ一小便ヲ治ス痢數十四五行メ此レヲ
見ルニ寒痢ノ不換金正多散ニ枳壳木香桔梗子大黃ヲ加テ即治
又三十日余ヲ經テ其痢疾癒ルト前如ニ病家潛ニ如神丸ヲ求

メテ服サシ其痢速治セリ又其後七月時方ニ痢ヲ患フ前ノ如シ
 目此度ハ腹脹テ堅手足ニサシムクニアリ至大病トナシテ療治
 ヲ断ル病家甚レニ恐テ前ニ如神をモ永メ急ニ痢リトメタリシカモ
 シヤ如神モノ業アタリカトニカタルニ此詔ヲ聞テ乃其理ヲサトヒコレ
 如神モ用テ其痢毒ヲ腸胃ニ止シユヘニ休息痢トナツテシカリトヨツ
 テ一決メヤハリ金匱ニ云テアル通り大氣氣湯角乞ハ其利毒云テ
 諸証従治無シヨリ再ニ癰ラサリキコトオリ痢病ヲ單ク止ル
 ト又此患アリコレ痢ヲ治スル一ツノ心也知ラスシハアルヘカラスカヨウ
 証三人ナレ氏是くハ惟一人ノ醫按ヨリ奉テ休息痢謂ヨ述シラヌルモ
 休息痢再案

辛癸歲更金匱於先師讀下利已差至其年月日
 時復癰者以病不盡故也當下之宜大氣氣湯之法乃數世上豈
 有陳年之痢其年月日時數字恐多傳寫之誤焉茲甲寅七
 月中旬河州一富叟十三歲下痢赤白諸治無驗求予用治脈之滑
 因記得仲景曰下痢脉反滑者當有所去下乃愈宣大氣氣
 湯之言遂撮大氣氣湯而與之一貼証減半貼愈七八改用木香
 異功散收功次年乙卯忽患鴻利日十餘次又請予治脈之又
 滑因問其親曰令郎此証云秋始患耶親曰冒八歲時患鴻而後

嘗廁服白木散百餘日統得平安厥後每年秋初必患痢疾每發便
服白木散經十餘日乃愈去年之痢亦服白木散但不應專故請公
下藥矣序聞此言恍如夏晝喰冰謹服仲景先生之神於醫也因
又與大承氣散貼痢止強與數貼鴻下腸碗計後仍用異功
散收功而次年再不作矣友松子先生治スルトヨリ休息痢ハ休息
痢ノ實証ノ休息痢モ亦虛証アリカレ能診察メ虛實ヲ誤ラ又
ヨウニスベシ今アカ治スルトヨリ小梅ヲ挙ルヲ左ノ如ニ一婦人休息痢ヲ
患シ証毎年四五六月ノ間ニアツテ痢ヲ患サレハ必鴻ヲ患フ其証発ルトイ
(凡敢テ元氣モヨリ食ミスミ歎狀常ノ如ソニ見エニ依テ病ノモ家内モ
深キ主意モナキナリ)

持病ノ如ク思ヒ烏ツ療治ヲ加エス只賣草俗方ナトヤ服メ歲月ヲ送ル丁
數年ノ治ヨ全キ頬メアリヨニテ診ル虛實別ラス餘リテアラキ事ヲシテ
シシジモイカト思テミレヒ亦大補固元ノ剂ヲ投セシモ如何オモヒ升陽
除溫防風湯ヲ投セタハ脚効アリテ四五劑ニ全快ヲ得アリ次歲吾
ヤウスヲ向ハ今年ハ其意ナレトイリ此等ハ休息痢ノ内ニシテモ虛証ト
モ立(キモノ)心ねタニキユニ載ス又此方ヲ用允意ハ升・提・意・外ニ
深キ主意モナキナリ

大黃人参湯并

大黃一錢人參十錢右水煎服傷寒時疫家專用
ヘキ証ヲ恐テ用ス元氣弱ナリ下利ヲ投カタキ証或因ヨリ虛証ノ病。

下スヘキ証ナレ凡下剤ヲ用カタキモ或下剤ヲ用レヒ大便不下者已虚証
六三下スカキニヨウテ通セサルナリ或廥病虛寒共ニオヨウテ過補苦寒ニ
カタスムノ威カタキ証此等ノ証け方ヲ用テ大効ヲ取リ多ニ此秘中ノ秘
ナリ此旨本艸新編ニモ此モラヲミヘリトアリニア意ヲ取テ廥病ニ用テ
効ヲトルト往々アリ

廥後眼病并

治療経験云小兒利後眼中カスミ或雀目等ノ

証ト在トアリ是ニ虛ト寔トニツアリ然レハ大既寔ニ属スルモノニ度ニ是

ハ消瘡明目ノ刺ヲタク天麻丸等ヲ雜人服メ効ヲ得ルヲシ其方

青黛黃連天麻川芎夜明研薑蒿各ニ克半唐防風龍胆

蟬退各一隻半全蝎射龜各二隻蝦蟆ニ双腮刻右十二味極細末
トナレ一隻計二日取服盡スヘシスヘテ消瘡瘡積兼世上數タマレ
止痛眼ノモノハ久服多服カニラサハ効ヲ得ルトカタニ此方衆ニ又
キ出テ効ヲ得ルトアリ但ニ蜜煉ニメ足ヨリシ葉カサ并ニ合量凡葉
二倍セリ若蜜煉ヲ服シ得ヌモノハ青黛蝦蟆龍膽使君子等ヲ
以テ大トスルノ諸考或諸家痘眼名方タクニユラヒ用ビ蟹蠅魚膾
食ノ方極テヨシ足俗モ医素ヨリ知ルトヨロニ方ニ又附傳痘眼ノ
外術アノ其法凡温下冷上ノ術ナリ布テ以テ冷水ニ浸シ首ト頭上
温下冷上外術耳後髮際胸膈ノ邊ヲスクリヘニ又塩湯ヲ以テ腰已下ヲ浴シ

暖火生艾葉ヲ以テ布ノ袋、盛^ミテ蒸一單ノモナキレ^リテ是
 ヲオニ小便ヲメ呈^ミテ踏^スル一時ハカリ此通ニ^スル^ト晝夜向ニ度
 三度ハカリスル^トユノトオノ日數八九日カ間^フテスヘシ是^ト隔下冷上^ト
 外術ニ^シ屢^ミテ試^ム、効アリ然^ニ此証既^ニ腫子ヲ損^スルモノ、
 難治^フモアル^ト若其^ヲサシアル^トキニ早^ク内外^ヲ用^テニ^シ治^ム、
 治セスト^トク^{ナシ}トアリ^ト、^ト治^ム、^ト療^ム経驗^ヲ讀^フ數年^ニモ此方
 未^シ試我門^ミテ^スロミヨユノ如^シ云通^ク必^シ神効^{アル}ヘキ^ト事誠^ノモ
 ザレ^ニ其^ノ治^ム法^是謂^{アル}ト^{ナシ}ハ衰^ミ記^メ、經驗^ノ人^ヲ待^{モナリ}又^ニ虛
 痢^ヲ病^テ後^ニ大便^易鴻形容虛弱者多^ニ雀目^トナ^ル或^シ眼中乾^ト
 脾^{アルモノハ}足鴻^ト多^ニ疊^テ滅^シ眞水^ノ乾^ルヨリ寃証^ト此治^ム法^補
 脾^{利^ト}以^テ六味地黃丸^ヲ兼用^ヘシ其^効甚^速ナリ若誤^テ前^ニ云^ト
 ヨロ^ノ如^キ証^ニ痳眼^ノ治^ム法^ト以^テ之^ヲ治^スルトキハ大害アリ今世俗脾
 痔^トニモノニ此証^ヲシモロ^ト寒^{利^ト}ナ^ルトキハ大便鴻^メ食^ス、^テス^ニ中集^シ
 調^トス^リキハ眼病^{イヨ^ク}損^ミ換^シ受^モオ^シ此等ハ右^ノ通^リ王道^ノ
 理^ヲ施^スル^ト取^{ヨウニスベシ}此証^ハ更^ニ鴻利^ト後^トリワ^ト多^ニ虛^ト實^ト
 ト^ノ分別^シ其^ノ治^ム方^相ヘタ^リカクノ如^シ案^セス^シハカラス
痢疾形狀之弁其^ノ病人實極^シ痢^ナシ^トキハ裏急^モ後重^モ虛^ト痢^ト
 千カヒ至^テ其^ノモ^ニ度數^ナトモ一度キ^リ頻^ニスモ^リ脉^ハ沈實^メ

小ナリ是ハ初ヨリ疎懶ノ刺苦ニカラス初ヨリ池鴨ノキモ一向ナクシテ
膿血ヲ多下シ肛門ノ若其ク食便ニ通セス間ニナメノ中ニ結糞ヲ下ス。
糰下シ病快ト云モノハ此実也ノ刺メ太薦刺如キ疎利奈
ヲ用テ一向サハリナキモノ此等ノ誕ニ大而氣湯ヲ用テ効ヲ取フアリ
其外疎懈ノ刺種々アリエテ用ヘニ又瘻病ヲ治スニ心得アリ池
鴨ヨリ後ニ瘻病ニナリタルモノニ後瘻病ニナラサルハナシ此處ヲヨクシ
病人向おスヘシ此亦瘻病實瘻ヲ決スル大事ソコロナリ

鴨瘻糰色矣

張景岳曰古人有以小便鴨利糰黃酸臭者皆

作胃熱論治此大誤也蓋飲食入胃化而為糰則無有不

臭者豈得以黃色而酸臭者為熱乎今以大人之糰驗之則凡胃強糰
實者其色必深黃而老蒼方是全陽正色若純黃不蒼而糰有嫩
色則胃中火力便有不到之處再如淡黃則近白矣近白之色則
半黃之色也糰色半黃則穀食半化之色也糰氣酸腥則穀
食半化之氣也穀食半化則胃中火力盛衰可知也若必待糰青
糰白氣味不臭然後為寒則寃之遲矣故但以糰色之深淺糰
氣之微甚便可別胃氣陽和之威色智者見於未然而况於顯
然乎故曰古人以糰黃酸臭為火者大誤也再如小水之色乃大便
鴨利者清濁既不分小水必不利小水不利其色必變而清者亦

常有之然黃者十居八九此因酒亡陰也則氣不和氣不化則水涸
水涸則色黃不清此自然之理也使非有淋熱痛滯之証而但以
黃色便作火治者亦大誤也云云右、景岳先生論甚詳然則
其內外之議、斯、ベキモノナキニアラス其謂ハ小兒ノ酒痢盡黃酸臭
者亦有胃熱ゾノ見シハ自ラ其糞臭ニテ鼻ニカヒテ嘔ニテリ與
ニホヒアムモノハキワメテ胃熱ノ先其胃熱ゾムテ其酒痢ヲ治メ愈モノアリ
又胃熱ヲ去ハ酒痢ハ自ラ治スルモノアリ又一方ハ胃熱ゾム一方ハ酒
痢ヲ治兩方ゴカクニ方ヲ組テ治スルモノアリ陽氣不足メ酒黃白
近キモノハ此胃中ノ陽氣不足メ薑茎ノ力サキユニ既モ色ガ萎メ

薄クナリテ後ハ白クナルニ是ニサナリ鼻キニホヒハ次メナキモノトカリ奥
ニホヒ此便中ニアルトキハ是陽氣不足メ濕熱モ亦盛ナルモノトカク
糞ノ酸臭淡黃白色ノニヲ論セス只熱臭タナキリ身半糞アリトキ
熱有トシ然臭ノモテリ臭ク無シテ惟平便ノ臭アルモノハ景岳先生
論論因テ是ヲ決セヨ比方一つ心得ナリモノナリ或人問曰、食物ヲ喰テ胃
入テ糞トナルキハ白キモノヲクウテモ赤キモ青キモ皆黄色ニナリテ通スニ其ノ
謂イカシ善テ白脾胃ハ土ニ屬メ其色ハ黄也故食物白キモノ者モ青キモ
黒キモ皆尅化、糞トナル上ニオササテハ土ニ屬スルトヨロ、胃ノ腑ノ色ガウツク
テ黄色ニナル其黄色ナルモ皆是、胃中ノ陽氣ヲシテ蒸ハリア

ヒニテ黄色ニシテルノ如じハ黄色ニナルハ土ノ本色ヲ穀物ニ移ストハイヘ
 陽氣ノ蒸ガラコヨキトキハ能黄色ヲ糞ニ移スヘ若陽氣不足メ蒸
 力カヒナキトキハ土ノ色モ糞ノウヘ黄色ニムラカアル筈ノ道理ニヨリ
 物磨ニシテ云トキハ鞠室ノヤウナルモノ鞠室ト云モノハ土ヲ四方ヨリスリ
 畏メ其内ニ大ヲ大キニシテ重子其半ノモリオク其半室中火氣ニサ
 レテ統ナル鞠ノイロハ黄色此ニテ胃中ノ陽氣忙タルトキ其糞色
 黄色ニナツテ出ルアンハヒテ知ヘシ又火力薄キトキハ其鞠大ニ
 色内ニテモウスヰ处アリテタラニラニ日又少大ニサモハサルトキヤハリ素
 ミラケテ黄色ニナルナリ又室ノ内ニサモハサルトキヤハリ素
 室ニテ白

色計ニナウテイレ然ルトキハ色ノ黄ニナルハ火カノウニテ分レフ是肺胃ノ
 肺化トキナリ此理ヲ以テ景岳先生此論ヲ剝剥メ觀ヨ其理遂ニカル
 ノアカ熱クサキホテリ臭キト云ハ常ヲナレタル熱邪景岳先生ノイワ
 レタルハ常ノ陽氣ノウヘニテ邪熱ホテリナニハ源ス邪熱ノホテリ糞
 移中ハ常ノ陽氣ニテ化熱シタル熱邪景岳先生ノイワ
 加ワルニ之ヲ知ルハ鼻ヲ以テカサレハ知レ又道理ソノウヘ清黃白色モ亦此
 陽氣ノ不足ノ上ニテイロナリ是ニモ邪熱カアルトキハ極眞也ナクサキノ
 出ル道理常ノ陽氣ノ不足ハ亦是渥熱熱自ラ熱ニナリ
 故ニテホテリ臭ク熱クサキヲ以テ邪熱有無ヲ知教ル其シヲ知ルニハ

鼻ニテ糞ヲ香サカヒテ擇レハ其邪氣ヲホテリ鼻キ熱クサキト云々、
 自然トツカル道理ナラスヤ是以景岳先生ノ論中ニサシ議スヘキトナキニ
 ノト云テ理會カテニユクキモト▲サテ大便ノ鴻利スルモノハ景岳先生ノ云タ
 通シ清濁方ラスメ小便黃色ニナル此ハ鴻利固テ氣不和ニシ黃
 色ニハルナリ此小便ノ色ノ黃ナルナムテ固モトヨリ撫トナスヘカラス小水
 サキヲ以テモ亦必撫ドナスヘカラス此論至極セア然レニ亦ニサシ
 議スヘキトナキニモアラス其ニサヒハ撫ノ色ハ小便カ亦シ虛色ハ小便
 カ黃色ナリ赤卒ト黃色トヨリ撫ノ有無ヲ知ル是財心自然ニサテ
 其赤卒ト黃色ノニワタ知ルニハ小便サタメテノ上ニテハ知兼ルモハ小便ノ
 通スル處ラニ見ルトキハ黃色ト赤卒ト能カレモノニ赤卒トキ、撫トモテ
 方ナシ處莫ナルトキハ虛ラ以テ方ナシケルナリ然レニ赤卒トキニモ虛証ア
 リ黃色ニモ實証アルモノニ然レニ是ハ十中一二ニタアルモノニアラス
 此段ニナツテモ愈々虛証カ實証カラ別クトニハ小便ノ色一通リ
 テハ別兼ニモノニ証ト病ト引クラヘ脉ト脈トキニヒキクラヘ脉ト証トト
 引クラヘイロニ参考スルトキハ撫ノ有無証ノ虛實患別モノニ小便
 ノヲ以テシカカリト別ニトスルハ難キトト或人問曰鴻利小便黃色
 ナル其謂イカシ音白ユニ云黃色ハ窮金イロニテ黃色内ミテモ
 亦モタ吊タビタルカニ莫ニアリ黃色ナリ黃相色ニアラス此ト吉能く見

分べ然うサレ必其症ヲ誤ルヘシ是小便ノ色ノ見方ヨリ^{サテ}而文鴻
廁ハドウシス謂テ以テ黃色ニナルナシハ氣不和スルカニ^ニ氣ハ陽ニ
属メ熱^ヒ類^シサレ凡^タ熱トハ大異ナシリ此正氣凝滯スルニヨツテ則^{モツ}テ
自然ト小便ニ色カツク之^ニ是樞^ニ脾胃^ニ虛スルトキ^ハ九竅^ヲカタメニ
閉^ヒ滯^ス便^ニカタメニ^ニ虚^スト云トキ^ハ小便ノ色モ今ユニ云外^ノ膏金色
色ノ黃色^ニ惟此黃色鴻利^ニ限ル^ニアラス^ステ氣不和トキ^ハ
小便ハ何^モ膏金色ノ小便ナリト知ルヘシ是亦ト黃色トヨリニ病誕
ヲ別^シ。

鴻後膿血之辨

深后膿血下ハ初^ニ水鴻ナト一兩^モ或^ハ四音^モ煩^テ

ソカラ^ニ膿血轉^メ煩^フモノアリ是^ハ脾^ニ骨^ニ虛^{ヨリ}癰^ト又^ニ腸^胃^ニ
血液脂膏^カ下リテ假^ニ廁^ノ膿血似^{セテ}下^リモア^ニ脾^ニ骨^ニ虛^ニモ
セヨ腸胃ノ血液脂膏ニモセヨ^リトモニ虛^{ナル}フハ^ニ余^シモ甚^ニ虚^ニモ
ニ至^テハ自^ラ二種心^{ナリ}脾^ニ骨^ニ虛^ハ布^ニ水^ニ珠^ニ出^{タル}は原湯^{ヨシ}
腸胃ノ血液脂膏^ノ眞人^ノ養藏湯^ノ類^{ヨシ}此謂前^ニ詳^ニ併^シ
セ見^ルヘシ

逐瘀湯

壽世保元曰治血廁痛不可忍又治血廁其効如神

阿膠^{枳殼}茯苓^{赤石脂}白芷^{川芎}赤芍^{生地黃}莪术

木通^{五味子}柏脂^{丹皮}桃仁^{大黃}甘草^{右各一錢}右十味水

煎入蜜温服此方半從未經驗之方一條下云通ノ証用テ試
寒ニ神ノ如ク相違ナク妙効ヲトル方剤

木香流氣飲 此方能治氣痢連痢トハ其下ルトヨロ大便ヲ見
ルニ蟹沫如クアワタキタルモノヲ下ス是之脉沈此方ユレタ至ル又心氣
飲ニ調子ヲ加用テ多効ナル

大防風湯 久痢腰痛アルニ甚効アルヲナリ

真人養藏湯 玄治先生經驗三世ニ云シモイラトニ用テ殊ノ外効
取テ著述セラシタル筆方口解ニ見(タリ)霜腹者ニ十月余ヨウ
名ニ至テ痢病ノヨウニ大便ヲ下ス誕ニコシテモナク休息痢一種)

第モ亦此方ニ附子ヲ加テ効ヲ取シテ冬ニバ但シヨシ胃風湯ヲモ効アリ

真人養藏湯ハ後重ニカリテ用ヨ胃風湯後重ナキヲ同

冒風湯 小兒ノ痢疾ハ不換金ノ場或ノ初起ノ痢疾用テ多効

アリ是固本先生ノケイゲニ

黃芩芍藥湯

此方有白痢兼熱ツヨキモノニ用テ妙効ヲ取秘傳
(方ニト筆方口解ニ見(タリ)來試ノモ我同學ノモノニテ試ルナルホ

ト矣然ノ事白痢用テ其効如神コト外秘傳スルモ理ナリト物語
ケル甚ニ黄芩芍藥各二分甘草三分右水煎服

倉黨散

此方ノ參敗毒散黃連陳倉耳ヲ加(タル)方此方

廁病発熱頭痛ヲ治メ能効ヲ取テ此方口鼻ノ熱ヲ目的ニ用テ
効ナシト云フナ後重強クハ大黄桔梗子ヲ加フ此方又瘧廁甚矣
スルヨ治スルニ黃芩草果ヲ加テ妙効ヲ取ト玄治先生ノ筆方口解ニ見
タリ

不換金正氣散

附子肉桂乾姜ヲ加テ能寒利治メ妙効ヲ取
方ニ足ハ東都原湯菴カ家方ト云フ不加經驗オシ

桃仁承氣湯

血痢腹痛便色黃黑ナルモノハ古血ヨリ赤ル痢
病此方ヨロシ但後重ワヨクハ木香換榔子ヲ但ニ大便如漆光ア
ツヨ黒ケレハ此瘀血也又ケレ岸ノ如クワヤナクシテ焦レイロニ黒キ大便ハ

換毒之此方ノ宣寧トヨロニアラス甚シハ解熱ノ主剤ヲアタヘヨリ之大便ノ
色黑キニ二種別レアル口傳或ノ間曰黑便ツヤアルシ以テハ古益トニ
謂イカシ言テ白血ハモト水ノ類故ニ惡血ニナリテモ水性ヲ見ヘ里キ
内ニ光ヨ帶ルモノニ又火ハ物ヲ燒トキハ焦レテシヤナシ是乾クモノシハ
故ニ大便ノ焦色ニメ光ナヤツヒテハ熱便トトニ此し黑便二種別レアル
モノ

真人養臟湯

虛寒ノ休息廁用テ神効ヲ取由本邦名医類
案ニ見タリ

升陽益胃湯

虛寒共ニ癰メ虛証アル者此方神効アリ友

松子先生遠揚云丁未初秋湿氣大行且秋霖初霽民病瘧
痢並作一医者試用雜方先者極多時予有老母於肥之長崎
崎民患瘧子痢而請掌者脩合升陽益胃湯隨手醫之隨服
隨愈病雖重亦不過二十貼而瘳信乎東垣製方之神妙矣
今后或遇虛弱人有患湿瘧濕泄者幸甚試之始信予之有
得乎古人言外之微意也予之医案予見テヨリノ經驗く至極効
アリ我徒コレヲ試ヨ登板ノ瘧痢ニハ前ノ倉廩散ヨシ虛証之瘧
痢ニハ此方ヨシトメルレ

四君子湯

痢後ノクノ後重不除脫肛スル等ノ証ハ皆是脾

氣虛陷ナルモノニ基トキハ四君子湯升テ防風ヲ加テヨニ此加味ノ方
脾胃虛メ大便ユルニ痢病ニ浪ラズ謗稱ニ用テ殊ノ外効アリ中ニモ
瘡瘍ノ骨膜崩ニ大便ノユルムハコトノ外惡シ早大便ヲ治セサトキハ痘
瘡内ニ井テ其氣多ハシカラスカヨウノ誕ニ附ニ升テ防風ヲ加テ効
ヨ取ツ裏才ニシス(テ大便)何故トモ知ラズユモナキニラトユルミノワク
此場ニ用テ甚妙効ナ取ル

補中益氣湯

此方ニテ効ナキトキハ六君子ニ反テ効ナ取ツ甚

甚通リ心ナキ用トヨリ場ヲ書外ニカケンスヘシ此等ハ療治ノウハ
ニテ意會ニ用テ修行セ子ハ其場合トクトカテニナリカタナフ

敗毒散

セトミニ赤玉丸或一粒丸等、如キ佑家妙方ヲ用テ痢
ヲ止テ後水腫ヲ癒シ或腹滿、大小便通セサルモノニハ此方ニテ黃芩、
硝ヲタクサシ加テ用ユ此亦効アリ

白頭翁湯

莫方白頭翁黃連黃柏蒼皮右各ホウ水煎服
此方ヨリ痢病ニ用ル心得ハ其下セトヨロノ大便コトノ外拠シトニラハ此方
次メ効アリ足ハ只痢病計ニテハナシ泄泻ニテモ同ク大便ニテノギ心地アラ
此方ヲ用テヨシ

肉桂之辨

スヘテ痢病ニ腹痛甚ツヨキモノハ虛ト寔トナ間ス其
主刑ノ中、肉桂一味カクヘカラス是ハ桂一味ノ目的、方綱内ニラ肉桂

ノ目的ヲ論スニアラス

延胡索ス弁

スヘテ痢病ニ血痢、腹痛ワヨキニ延胡索一味ガクヘカラ
ス甚効アリステノ痢病腹痛ノツヨキニ肉桂玄胡索ノ一味ハ加テヨシ
是ハ予カ経験

木香化滯湯

玄治翁ノ説此方ヨク氣痢、証蟹沫ノ沫ノ如キモ

ノヨ下スラ治メ大効アリトイ一ノ

參連湯

下痢禁口不食此方ニ石菖根ヲ加テ効アリ禁口トハ
呑氣アウテ一向ニ食氣ナキ証ヲムナリ嚙ロトイハトニ蓮ラシヒシハ食
ヲ請サル証ニアラス惟不食ノカタチラ嚙只ノ字ミ知ラシタルテノイ

嘴口ノ字ニ泥ハアシ、若黃連ノ苦味ヲキロウモノハ人參ノ三分一位ニツ
 モリ合テ調合スルトキハ多ハ草ヲ呑モノ、此証又理中湯黃連一味
 加テモヨシ又茯苓一味ヲ加テ連理湯ト云此方モヨシ又參苓白朮散
 二石菖根粳米ヲ加テ用ルモヨシ又參苓白朮散ヲ細末ニメ妙粳米
 未ヲ加味シ湯ヲタチ飲又モヨシ友松子先生ノ述按云一老婦脾胃
 素弱患下痢嘴口不食醫治旬餘更加虛熱舌胎而羸瘦
 強甚一医用參連湯更不應殆脾胃虛弱而不堪受黃連之
 苦寒也脉之五至而無力記得直指方有云下痢禁口不食雖
 曰脾虛蓋亦熱氣閉膈心胸所致也宜與料參苓白朮散加
 益年

石菖根末二錢米飲兼熱調下胞次一開自然思食之論如法脩製嘗服
 三匕而熱退五匕而能食至三十匕而痢止後亦唯服前葯收功モコノ医
 家ニ依テ徃々効ヲ以テアト但此時モ妙粳米ノ未ヲ加ヘメヨシ

胃風湯 此方和利局句方ニ出名方其條下云治風冷兼虛寒於
 腸胃水穀不化泄濁泛脹脹虛滿腹鳴痙攣及腸胃溫毒
 下如豆汁或下瘀血者上方ノ條下云ナル証ニ用テ神効ヲ取フ諸人ノ
 知トコロニメ云テモナニ葉品ハ甚平和ナル方ナレ凡カウヨリハ効ノアル方
 ナリ岡本先生此方ヲ用ル口訣ニ云此方ヲ用ルハ痢病ニ似テ鴻臚腹痛
 基モノ或膿血ヲ下シ或白膿ヲ下シ全ク痢病ニ似タルモノニ用テ患ク効ヲ

トヨニワロ訣アリ此方ノ証大便何程痢病ニ似タルトイハ後重ナキモノニ用ヨ飯堂セス^{的當乎}トナシ然レハ此方ヲ用ニハ痢病ニ似テ後重ナシト云カ此方ヲ用肝心ノ目的シヤト云テアリ此口訣至極セリ後重アモノハ痢病正面ノ療治オスヘシナキモノハ此方ノ証トスヘシ是肝要又区别ハ凡后重ノアルモノハ此証^良ラス^スヘシ痢病ノ胃^{ウツ}ニ^ハ治^スヲ為テタ無モノハ此方ノ症ト知^ルコシ后重ノ有ト無トニ^ハ痢病ニラサルト^ク知^ル肝心ノ口訣ナリ

雜利痢病區別之并

スヘテ腹ノクタル病^ア療治スニ^ハナリ

大便^ア色モ痢病ナトヨウニ^ハ腰血^ア通^{スル}コモアリ或^ア腹痛ナド

カシテ血ノ下ルモアリ其証イカヨウニ見テモ^ハ痢病ニ見^ハテ療治^スニ^ハナリ

カアルモノ^ハ甚シテ^ハ痢病ト心得テ療治^メ佳^シカヌ^ハ雜治^ヲナシテヨヒカラ

處^ハカタ何ニシテヨカラレト病因ノ決シ難キ^ハトカク裏急後重^ハ有^ハ誰^{ナシ}

無^ハ間^ヘシ^シテ^ハ間^テ後重^ハ意^ハ一^ハナイトイハ^ハ雜治ニ度^テ方^シテ

又後重アリト言^ハ痢病正面ノ治法ヲ以テ方^シテ^ハ口之^ハ痢病ト雜利

ト^ク別^ル处^ノ口訣^ノチカニ^ハ而レトモ亦是ニ心ぬアリ補中益氣湯ノ

証^ハ血虛^ヲ兼^スモノニ^ハ痢病^ハ後重^ニ似^タルモノアリシカシカラ是ハモト

元氣^ノ虛^ヲ出^タル証^ハ彼ト此トヤウス^ヲ聞合考ルトキハ能^シ

モノ^ハ此証^ヲ虛座努力^ノ証ト云虛座トハ大便ナシニ只カラモトリス^シ

玄努トハ俗ニ云息ツムフニ
ナニホトイキワシテモアトハル計ニテ、惟カラモトリヲ
スルニ足之癆病ニ似タル証之此証タクハ癆病ノ後ナトニアルハ大腸ニウクヒレカ
ツキ或ハ脾胃ノ氣力下ニ附テ虚座努カノ証トハナリニ氣虛カオモナ
ラハ四君子湯ニ防風升麻ヲ加テ之チ治ニ善カノロニユト恩トキハ附子ヲ加テ
治スヘニ薦又脾胃虛寒ト云ニカウツテ方ヲ薦シナラハ補中益氣湯ニ
飯ヲ信ニ酒製ニシテ用ヒツレニテモ掌力カタラヌト恩ナラハ是ニモニサニ附子
ヲ加テ用ヨ此虚座努カノ癆病ニ似タルトヨロノ療治、大法ナリ

